

142
85

大正十三年度業務功程報告

福岡縣水產試驗場



始



14.2-85₁



大正十四年五月

緒言

大正十三年度本場ニ於テ施行セル各種試験、並ニ調査及講習講話等ノ事項ニ就キ其概要ヲ録シ業務功程報告シテ刊行配付ス

大正
14.11.28
内交

福岡縣水産試験場長 金近義之助

大正十三年度業務功程報告

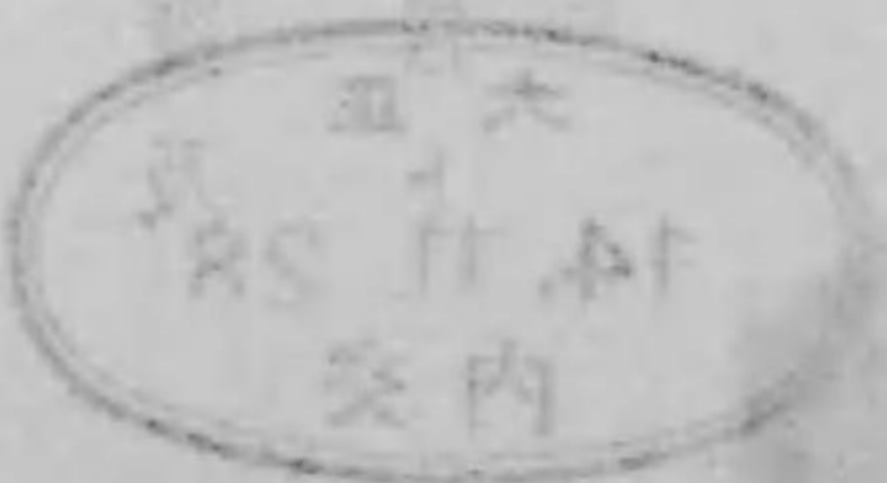
目次

鮭流網試驗	一
鮭飼付試驗	一
英彦丸建造顛末	二
貝類利用試驗	二
傳書鳩試驗	一七
漁業基本調査	一七
(1) 筑前海干潟實測	二三
1、糸島郡加布里灣干潟實測	二三
2、糸島郡今津灣干潟實測	二三
3、洞海湾干潟實測	二四
(2) 海洋觀測	二四
1、玄海灘橫斷觀測	二四
2、豐前海橫斷觀測	二四
3、有明海橫斷觀測	三四
4、魚試驗	三四
5、侍島養魚場鯉卵鯉兒配付	三六
6、豐前養魚場鯉兒配付及粗放養魚試驗	四〇



大正十三年五月

辭言



(1) 鯉 兒 配 付 四〇

(2) 汽水池粗放養魚試驗 四一

豊前養魚場新設 四二

(1) 新 設 經 過 四二

(2) 敷地沿革概要 四二

(3) 養 魚 池 導 四三

(4) 事 務 所 其 他 四三

筑豊沿海干潟利用試験 四四

(1) 加布里灣海苔養殖試験 四五

一、養殖適地調査 四五

二、時 期 試 験 四五

三、移 殖 試 験 四五

四、海水比重と海苔との關係 四七

五、海苔と地盤ノ高サトノ關係 四七

六、加布里灣海苔養殖振興策 四八

(2) 今津灣海苔養殖試験 四八

一、養殖適地調査 四九

二、時 期 試 験 四九

三、移 殖 試 験 四九

四、海水比重と海苔との關係 五一

五、海苔と地盤ノ高サトノ關係 五二

六、今津灣海苔養殖振興策 五二

(3) 洞海湾のり養殖試験 五二

(4) 豊前養島地先海苔發生狀況調査 五三

(5) 豊前曾根地先海苔發生狀況調査 五三

(6) 粕屋郡多々良川尻海苔發生狀況調査 五四

(7) 加布里灣かき採苗試験 五四

(8) 今津灣かき採苗試験 五五

(9) 洞海湾かき採苗試験 五五

有明海干潟利用試験 五五

(1) かき養殖試験 五五

甲、採 苗 試 験 五六

一、稚貝ノ發生及斃死 五六

二、採 苗 試 験 五七

乙、かき養生試験 六〇

丙、各地産かき移殖試験 六〇

(2) あさり貝養殖試験 六〇

一、大正十三年蒔付貝收納成績 六一

(1) はまぐり貝養殖試験 六一

(4) はまぐり蕃殖試験 六二

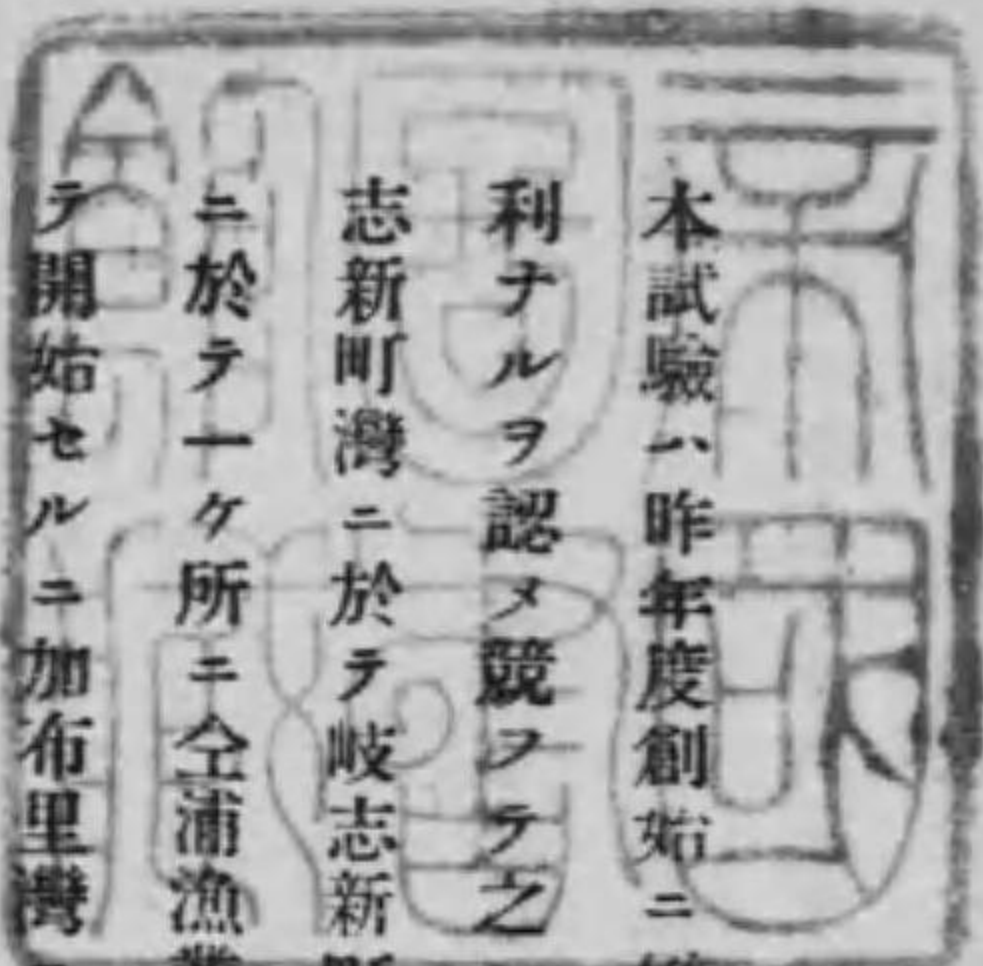
(5) あげまき貝養殖試験	六二
(6) 貝類發生狀況調査	六四
(7) 貝類ノ成長ト環境條件トノ關係調査	六五
(8) 海苔養殖試験	六五
一、築建適期調査	六五
二、築材優劣試験	六六
三、築建粗密試験	六七
四、附着區域調査	六九
(9) 有明丸建造	七〇
板屋貝調査	七一
船匠講習	七一
水産製造講習	七二
海苔簀製造講習	七三
乾海苔製造講習及指導	七四
有明海海苔養殖場設計及實測	七五
糸崎郡乾海苔養殖製造講習及巡回指導	七六
講習講話	七六
漁業取締	七七
有明海潜水密漁船取締	七七
	七九

鯖流網試験

技師 喜多山昇來

本試験ハ前年來ノ繼續試験ナリシモ漁業取締ノ關係上兎角充分ナル實地出漁試験ヲナスノ遑ナク本年度ニアリテモ之レガ試験船ハ漁業取締ノ必要アリ已ヲ得ス便宜和船ヲ備借入シ五六月ノ兩月ニ亘リ主トシテ宗像郡沖合ニ出漁セリ然ルニ本年春季ハ恰モ魚群沿岸ニ來遊ナク延繩漁業如キハ全部休漁ノ状態ニシテ僅カニ沖ノ島附近ニ僅少ノ漁獲アリタルモ和船出漁頗ル至難ニシテ充分ナル成績ヲ見ズシテ終漁セリ

鰯飼付試験



本試験ハ昨年度創始ニ係リ前年度ニ於テ豊前海方面ニ施行シタル結果全方面ニアリテハ本漁業ノ頗ル有利ナルヲ認メ競フテ之レカ漁業ヲ開始セルヲ以テ本年度ニアリテハ筑前海ニ面スル海面ヲ撰ビ糸島郡岐志新町灣ニ於テ岐志新町浦漁業組合ト隣浦小富士村漁業組合ヲ共同セシメテ一ヶ所、及糸島郡加布里灣ニ於テ一ヶ所ニ全浦漁業組合ト協同シ試験ヲ施行スル事トシ八月五日ヨリ十月四日迄二ヶ月ノ豫定ヲ以テ開始セルニ加布里灣ニ於ケルモノハ底質泥土多ク撒餌深ク泥中ニ埋没スルノ傾向アリテ撒餌ノ効果少ク從テ魚ノ來游惡ク成績良好ナラサリシモ岐志新町灣ニ於ケル漁場ハ頗ル良好ニシテ盛期八月下旬ニアリテハ一日一人ノ漁獲尾數四五十尾ヲ獲タルモノ尠ラスニテ一人ノ漁獲高二百餘圓ニ達シ零碎ナル沿岸漁業トシテ一般當業者ノ注意ヲ惹キ漁期半ハニシテ小富士村漁業組合ニアリテハ新タニ漁場ヲ撰

定シ二十餘隻ヲ以テ企業シ好成绩ヲ齎セリ

尙ホ對岸深江浦及筑前戸畑若松漁業組合ニ於テ前記ノ成績ニ鑑ミ組合經營ノ下ニ創始セントシ之レカ指導ヲ請求セルニヨリ漁場ノ調査及指導ヲナシタルニ廿餘隻ノ企業者アリ是レ亦意外ノ好結果ヲ得一人一日最高百四十餘ノ漁獲ヲナスモノアリテ本漁業ハ始ント縣下全沿岸ニ普及セントスル状態ニ至レリ

英彦丸建造顛末

英彦丸ハ大正四年九月ノ建造ニ係リ十八噸廿馬力ノ西洋型機帆船ニシテ爾來豊前海ニ於ケル各種ノ試驗調査并ニ漁業取締ニ從事シ居リシモ漁業界進運ニ伴ヒ速力遲緩ノ傾向アリ殊ニ取締ニアリテハ充分ナル目的ヲ對成スルコト至難ナリシヲ以テ大正十一年度機關ヲ卅馬力ニ變更シ使用シ來リシモ船体漸次腐朽シ各部分ヨリ漏水浸水甚クシク冬季荒海ノ航行不安ヲ感スルニ至レルヲ以テ本年度追加豫算ヲ以テ之レカ代船ヲ建造セリ而シテ其建造ニ際シ次年度機船旋網漁試驗ノ計畫アルヲ以テ之レヲ考慮シ該漁業ニ適用シ得ヘキ構造トナシ大正十四年二月十日縣下宗像郡神之湊町ニ於テ建造ニ着手セリ大正十四年三月卅日竣工セリ船匠ハ從來本縣ノ船匠講習會ノ修業者ヨリ撰拔シ宗郡像岬村占部幸一、長岡與四郎ノ兩名ヲ棟梁トシ本場員監督ノ下ニ建造セリ

本船ハ西洋型機帆船ニシテ總噸數十八噸二、機關及機裝品ハ從來使用セルモノヲ充當シ其機關ハ卅馬力

一、本船ノ構造

一、重要寸法

長	サ	五十二尺
幅		十一尺五寸
深	サ	四尺五寸
長ト幅ノ比		一〇、一五
長ト深ノ比		二六九、二
幅ト深ノ比		四、五二
第一數		一一、五五
第二數		二、六〇〇
總噸數		十八噸、二
馬力		參拾馬力

一、船体各部ノ構造

松材幅中央二尺船首尾五寸厚サ五寸トシ矧台ノ部ハ徑五分ノ敲釘ヲ以テ壹尺五寸心巨ニ固着ス

二、船首材

樺材厚サ五寸幅八寸トシ敷トノ嵌接ハ鈎型トシ五分ノ敲釘二本宛ヲ以テシ其ノ兩側ニハ「ナマコ」型黃銅製金具ヲ付シ徑三分ノ銅敲釘ヲ以テ固着ス

三、船尾材

樺厚サ五寸幅七寸トシ上部ハ上甲板ニ達シ徑四分ノ敲釘ヲ以テ船梁ニ固着シ下部ハ箆ヲ作り敷ニ嵌入シ兩側ニハ鳩尾狀黃銅製金具ヲ付シ徑三分ノ銅敲釘ヲ以テ固着ス

四、舵柱材

樺厚サ五寸幅六寸五分上部ハ上甲板ニ達セシメ徑四分ノ敲釘ヲ以テ船梁ニ取付ケ下部ハ箆ヲ作り敷ニ嵌入シ兩側ニ黃銅製鳩尾型金具ヲ付シ徑三分ノ銅敲釘ヲ以テ固着シ本材ト船尾材ノ間ニ樺若クハ松材ノ填材ヲ付シ徑四分ノ敲釘ヲ以テ適當ニ固着ス

五、力材

松材ヲ以テ船首尾ニ應シ高サハ斜肋骨ヲ取付クルニ充分ナラシメ徑五分ノ敲釘ヲ以テ心巨一尺五寸心巨ニ諸材ヲ貫通シテ固着ス

六、管胴材

樺材七寸角トシ二材合セニシテ徑四分ノ敲釘一尺二寸心巨ニ配置シ船尾力材ニ固着ス

七、船尾縱翼材

松材厚サ三寸五分深サ五寸トシ上部ニ至ルニ從ヒ深サヲ減ズ船尾材、填材、舵柱材ヲ挾ミ徑四分ノ敲釘ヲ以テ適當ニ固着ス

八、肋骨

松材厚サ二寸四分幅三寸五分トシ頂部ハ二寸トス但シ機關部ハ適當ニ補強トシテ其ノ截面ヲ増ス

銜接添材ハ肋骨ト全表面ヲ有シ其ノ長サ一尺五寸トシ兩材ニ徑三分ノ敲釘二本宛ヲ以テ固着ス各肋骨ト敷トノ固着ハ徑三分ノ敲釘及全徑ノ打込釘ヲ交互ニ六寸心巨ニ配置固着ス

肋骨ノ心巨ハ一尺五寸トス

九、内龍骨

米松材幅六寸深サ四寸嵌接ノ長サ二尺トシ三分ノ敲釘六本ヲ以テ固着ス肋骨ノ固着ハ肋骨一本置キニ徑四分ノ敲釘ヲ以テ其他ハ徑三分ノ打込釘ヲ以テ敷ニ固着ス

十、灣曲部縱翼材

米松厚サ二寸幅五寸ノモノ各舷二條宛トシ嵌接ハ長サ一尺五寸以上徑三分ノ敲釘三本宛ヲ以テ固

着シ肋骨トハ各一條宛徑三分ノ敲釘及二分五厘ノ打込釘各一本宛ヲ以テ肋骨一本置ニ其他ノ肋骨ニハ徑二分五厘ノ打込釘二本ヲ以テ固着ス

十一、梁 受 材

松材厚サ二寸幅七寸嵌接ノ長サハ二尺五寸トシ徑三分ノ敲釘三本ヲ以テ固着シ肋骨トノ固着ハ徑三分ノ敲釘及全徑ノ打込釘各一本ヲ以テ肋骨一本毎ニ固着ス
敲釘ハ舷側厚板ノ固着敲釘ト兼用ス

十二、甲 板 梁

松材トシ 普通甲板梁 三寸五分角

艙口前後梁 四 寸 角

機關室前後梁 四寸五分角

心巨ハ肋骨ノ貳倍トシ梁矢ハ二寸トス

肋骨ノ位置ニ於テ梁受板ニ嵌込ミ徑四分ノ打込釘ヲ以テ固着ス

十三、梁 壓 材 (船艙兼用)

檜厚サ一寸八分幅七寸トシ嵌接ノ長サハ二尺一寸トシ徑三分ノ敲釘三本ヲ以テ固着ス
固着ハ梁毎ニ徑四分ノ敲釘ヲ以テ梁受材ヲ貫通シテ固着シ肋骨ノ間ニ於テハ全徑ノ打込釘ヲ以テ

舷側厚板ト固着ス

十四、梁 曲 材

松又ハ樺巾二寸五分深サ咽喉部五寸兩端二寸五分腕ノ長サ一尺二寸トシ徑四分ノ敲釘各腕ニ二本宛ヲ配置ス總數約三十個

十五、肘 材

樺又ハ松材厚二寸五分咽喉部約六寸長サ適當トシ船首ニ一個トシ固着ハ肋骨毎ニ徑三分ノ敲釘二本宛ヲ以テ外板ヲ通シテ固着ス船首材ト徑四分ノ敲釘一本ヲ配置ス

十六、舷 側 厚 板

檜材厚サ一寸八分幅六寸嵌接ノ長サハ二尺トシ徑六分ノ敲釘三本宛ヲ以テシ肋骨トノ固着ハ全徑ノ敲釘及全徑ノ打込釘各一本宛ヲ以テ肋骨一本置キニ他ノ肋骨トハ全徑ノ打込釘二本宛ヲ以テ固着ス

十七、龍 骨 翼 板

杉材厚サ二寸幅七寸嵌接ノ長サハ二尺二寸トシ徑三分ノ敲釘三本宛ヲ以テ肋骨トノ固着ハ前項ト全様トス敷トノ固着ハ徑三分ノ打込釘心巨五寸ニ配置ス

十八、外 板

吃水以下ハ米松全以上ハ檜材厚一寸五分幅五寸肋骨トノ固着ハ徑二分五厘ノ敲釘及全徑ノ打込釘各一本宛ヲ以テ肋骨一本置ニ他ノ肋骨トハ全徑ノ打込釘二本宛ヲ以テス

外板ノ横線ハ肋骨上ニ於テ銜接トシ其横線ノ避巨ハ上下ニ隣接スルトキハ肋骨ノ心巨ノ三倍以上トシ外板一條ヲ巨テタルトキハ全心巨ノ二倍以上トシ二條ヲ距テタルトキハ心巨以上トシ三條ヲ距テルニ非レバ全一肋骨上ニ於テ接合セサルモノトス

十九、内張板

米松厚サ八分幅七寸一分五厘ノ角板ヲ以テ肋骨ニ適宜固着ス

二十、甲板

檜材厚サ一寸五分幅四寸徑二分五厘ノ敲釘二本宛ヲ以テ梁毎ニ配置固着ス横線ノ避巨ハ外板ニ準ス

二十一、艙口及機關室縁材

樅櫓及栗ヲ混用シ厚サ一寸八分幅甲板上五寸トシ徑四分ノ敲釘一尺五寸心巨ニ配置シ梁ニ固着ス

二十二、隔壁板

杉材厚サ二寸矧合セハ二十多ノ落釘ヲ以テ縫着シ肋骨ニ添ハシメ徑二分五厘ノ打込釘ヲ以テ固着ス

二十三、機關室

縁材上二尺二寸トシ樅又檜二寸角ノ支柱ヲ用ヒ圍壁ニ「サイトボート」三個宛ヲ設ケ出入口ハ押戸トシ兩舷ニ適當ナル梯子ヲ設ケ且ツ天井ハ米松厚サ一寸五分トシ帆布ヲ張リ詰ム尙適當ノ位置ニ「スカイライト」「ベンチレーター」一個宛ヲ設備ス

室内ハ全部亞鉛板ヲ張り詰ム

機關臺ハ樅トシ七寸角トシ肋骨ニ組入レ徑七分ノ螺釘ヲ以テ肋骨毎ニ固着ス

二十四、操舵室

機關室圍壁ノ前面ニ設ケ室内ニハ操舵ニ要スル一切ノ設備ヲナシ室ノ周圍ニハ角硝子窓ヲ設ケ操舵見通シニ便ナラシム出入口ハ兩舷ニ開閉戸ヲ付シ梯子、把手金具ヲ設ケ

室ノ屋上ニハ高サ二尺三寸ノ鐵柵欄ヲ廻ラシ後方ニ梯子ヲ備フ

二十五、炊事室

機關室ノ後方ニ設ケ竈、食器、食料戸棚ヲ設備ス兩舷ニ開閉戸ヲ付シ周圍ニ丸窓硝子ヲ裝置ス

二十六、船員室

炊事室ノ後方艦部ニ設ケ兩舷ニ二個宛艦部ニ一個ノ寢臺ヲ作り圍壁ノ高サハ機關室ト同様ニシテ其中央ニ「スカイライト」ヲ設ケ尙「テッキグラス」ヲ六個及ヒ「サイトボート」兩舷四個ヲ備フ

出入口ハ押戸一個ヲ付シ適當ナル梯子ヲ設ク

二十七、職員室

寢臺三個ヲ設ケ寢臺ノ下部ハ抽出シトナシ更ニ戸棚ヲ適當ノ位置ニ設ク
尙該室圍壁ニハ「ザイトポート」二個及「カイライト」ヲ設ケ甲板ハ帆布張トシ周圍ニ眞鍮手欄ヲ設ク

出入口ハ押戸トシ適當ノ梯子ヲ設ク

二十八、張出シ甲板

船体ノ中央部ニ於テ一尺二寸宛ノ張出甲板ヲ設ケ甲板ノ厚サ幅固着法等ハ甲板ト全様トス
之レニ附屬スル防舷材ハ米松中央ニ於テ厚サ六寸幅三寸五分トシ梁ハ梁曲材ヲ用フ用材ハ普通ノ
梁曲材ニ準シ腕ノ長サハ一尺二寸以上固着ハ肋骨外板ヲ通シ徑三分ノ敲釘二本宛ヲ以テシ防舷材
トノ固着ハ梁毎ニ徑四分ノ敲釘ヲ以テス張板ハ米松厚サ八分

二十九、舷橋柱

松材二寸角長サ一尺三寸心巨二尺八寸トシ防舷材ニ符ヲ以テ嵌入シ適當ノ個所ニ鐵梁曲材ヲ以テ
固着ス

三十、舷橋板

米松厚一寸トシ徑二分角ノ打込釘ヲ以テ舷橋柱毎ニ固着ス

三十一、手摺

樺材幅六寸厚サ二寸舷橋柱ニ符ヲ作り嵌入シ徑三分ノ打込釘ヲ以テ固着ス材ノ嵌接ノ長サハ一尺
八寸以上トシ徑三分ノ敲釘三本ヲ以テ固着ス

三十二、舵

舵心材ハ徑五寸樺材ヲ用ヒ矧板ハ松材トス舵心材ト矧板トハ徑五分ノ敲釘心巨一尺五寸以内ニ固
着ス蝶番ハ砲金製二組トシ舵針ハ徑九分壺金ノ深サ一寸五分厚サ四分五厘トシ四分ノ銅敲釘ヲ以
テ固着ス

三十三、填絮

甲板及外板ノ縦横縁ハ「ホーコン」ヲ以テ填絮シ甲板及吃水線以下ハ「ビツチ」ヲ用フ吃水以上ノ外
板ハ「ボテ」ヲ填充ス

三十四、船底包板

包板ハ十四「オンス」ノ銅板ヲ用ヒ吃水線上五寸迄張詰ム

三十五、塗裝

外板吃水線上ハ適當ノ色「ペンキ」ヲ以テ三回塗トシ諸室其他ノ部分ハ「ペンキ」ニス等ノ塗料ヲ

三十六、橋 及 桁

檣材徑六寸長サ甲板上一二十尺トシ艦部ノモノニハ一個ノ網揚用「デリック」ヲ裝置ス桁ハ兩者共適當ナルモノヲ設備ス

三十七、操船具及擊船具等

船首ニ錨揚機一個ヲ備ヘ之レニ附隨シテ「アンカータビット」「ホームバイブ」「チエーンバイブ」

「チエーンストッパー」「ビルフレート」「ビット」「フエヤーローダー」「クリート」等ヲ裝置ス

三十八、ダビット及ワイヤリール

「ダビット」巾着網錘鉛用ニシテ艫部ニ裝置シ鐵製徑二寸長サ五尺トス

三十九、網綵用「ローラー」

艫部ニ取外シ得ル裝置トシ樺製中空徑四寸長十尺ノモノ一個ヲ付ス

貝類利用試驛

技師 福 井 守 一

本試驗ハ前年度ヨリ繼續セル事業ニシテ有明海ニ饒産スル貝類ヲ利用スルヲ主ナル目的トシ之ト全時ニ全地方ニ多産スル雜魚ノ利用方法ヲ指導獎勵シテ漁村ニ於ケル老幼婦女ノ副業タラシメンガタメ前年

度ニ於テハ最モ容易ニシテ資金ヲ多用セサル蠶串刺及ビ貝類佃煮ノ講習ヲ行フト共ニ貝類串刺調味焙乾品作製試驗ヲ行ヒシガ僅ニ其緒ニ付ケルニ過サリシヲ以テ本年度ニ於テハ更ニ進ンデ貝類ノ調味乾燥品及全焙乾品貝類醃藏品雜魚利用試驗等ヲ行フ事トシ大正十三年十一月廿六日ヨリ十日間有明海研究所ニ於テ試驗ヲ行ヒシカ本年ニ於ケル有明海ノ諸貝類ノ養殖狀況ハ頗ル良好ナリシガ秋季ニ於テ突然來襲セル暴風ノタメ養殖場ハ攪亂セラレ貝類全滅ノ狀態ニ陥リ殊ニ本縣沿岸ノ被害甚シク冬季ニ至リテ蠶串ノ如キハ殆ド影ヲ見サルノ悲況ニ陥リ充分之ガ試驗ヲ行フヲ得サリシモ獨リ玉珧貝ハ前年ヨリ發生頗ル多量ニシテ特ニ本年ノ如キハ佐賀縣漁業者ノ潜水器業ニヨル漁獲頗ル多量ニシテ價格モ低廉ナリシヲ以テ本試驗モ主トシテ材料ヲ玉珧貝ニ取ル事トシ之レヲ罐詰以外ノ適當ナル製品化ヲ行ハントシ本年ハ主力ヲ玉珧貝ニ注ク事トセリ

一、玉珧貝調味乾燥品並ニ焙乾品

從來貝柱ノ加製法ハ罐詰、粕漬ノ外帆立貝ノ櫻干ト稱シ形態ノ儘調味壓搾乾燥セルモノ或ハ浪花の華等ト稱シ煮乾貝柱ヲ再度蒸煮シテ纖維トシ之ヲ調味セルモノ等ナルカ何レモ良品ト稱スルヲ得ズ故ニ本試驗ニ於テハ前年ノ蠶串刺調味乾燥品ニ「ヒント」ヲ得タル調味乾燥品又ハ焙乾品ノ作製ヲ行フ事トシ玉珧貝ヲ原料トシ之レヲ數片ニ横切シタルモノヲ調味液ニ浸漬調味着色ヲ行ヒ次ニ之レヲ約三寸ノ竹串ニ三四個宛ヲ團子狀ニ刺貫キ金網上ニ展乾スルコト三日ニシテ八分乾程度ニ於テロールニカケ再

度一日々乾製了セリ本品ハ形狀ニ於テ特種ノ形ヲ保有スルト調味液ノ關係上色澤赤白ノ兩様アルト其
 食味ノ良好ナルトノ結果試奏ノ結果頗ル良好ニシテ製品トシテ需用多キヲ認メ直チニ民業ニ移セリ而
 シテ玉珧貝調味乾燥品ヲたひらき有明乾調味焙乾品ヲたひらき有明焼ト命名セリ

一、玉珧貝ちご利用試験

從來有明海ニ於ケル玉珧貝ハ漁獲者ニ於テ剥殼シ肉柱ト内臟並ニ外奪膜トヲ分離シ後者ヲちごト稱シ
 或ハ食用トシテ鮮奏セラレ或ハ之レヲ煮乾シテ支邦輸出ヲ計ルモノアリシガ前者ハ僅ニ一荷担キニヨ
 リ大牟田地方ノ小區域ニ需用セラル、ニ止リ後者ハ製造時期恰モ冬期ノ曇天期ニシテ然モ内臟ヲ其儘
 加製スルヲ以テ乾燥頗困難ニシテ往々製造工程中腐敗セシムルコトアリ又内臟ヲ去ル時ハ歩留不良ニ
 シテ到底價格引合ハズ爲ニ其價格頗低ク之レガ利用ノ途ヲ講ズルハ最必要ノ事ナルヲ以テ本試験ノ第
 一步トシテちご中ノ可食部ガ何程ノ歩留ヲ示スカヲ試験シ次ニ之レガ利用法ヲ試験スルコトトセリ

一、ちご可食部歩留試験

ちご中ノ内臟汚物ヲ分離シ其可食部ハ外奪膜並ニ收足筋ノ二部ニ分ツヲ得ベク然モ收足筋ハ形狀特點
 ニ色彩又美ニシテ利用セラルベキモノナルヲ認メタルヲ以テ此兩部分ニ付歩留試験ヲ行ヒタルニ左ノ
 如シ

一ちごノ價格 一升五錢

但安價ナル時ハ四斗樽一丁分一圓即一升二錢五厘位ナリキ(前年)

平樹一升ノ個數 六十七個(普通取引ノ一升ハ此量ナリ)

全 重量 五百匁

盛樹一升ノ個數 七十五個

全 重量 五百六十匁

右ヲ内臟ト外奪膜ト收足筋トニ分テバ(平樹一升ヲ)

收 足 筋 六十二匁

外 奪 膜 百三十九匁

内 臟 量 二百九十九匁

計 五百匁

右ヲ鹽洗シテ粘液ヲ除去シテ後ノ重量左ノ如シ

收 足 筋 五十八匁(九割三分五厘)

外 奪 膜 九十八匁(七割)

(イ)外奪膜利用試験

外奪膜ハ其質強韌ニシテ色暗黒色ノ薄膜ナルヲ以テ之レヲ展乾セルニ色澤不良ニシテ然モ硬質到底食

用ニ供シ難キヲ以テ之レヲ醃藏利用スルノ途ヲ講シ先ツ味噌漬粕漬ノ兩者ニ作製セル結果ヲ見ルニ前者ハ配合材料タル味噌ノ價格高ク然モ之レヲ調味スル材料トシテ砂糖ヲ多用スルノミナラズ煉摺ノ結果歩減多ク然モ製品ハ一般向ト云フヲ得サルノミナラズ高等食品ト云フベカラズ然モ其價格低ク其貯藏期間モ長期ニ亘ルヲ得サルヲ以テ適當ナル利用法ト認ムルヲ得サリキ

粕漬從來玉珧貝肉柱ハ粕漬トシテ利用セラレタレドモ外奪膜ハ粕漬トシテ利用セラレシ事ナカリシガ本試験ノ結果製品ハ質強靱ナルモ齒切レヨク之レカ品評ヲ乞ヒタルニ何レモ良好ノ評ヲ得タリ而シテ柱粕漬ハ美味ナルモ保藏中色澤黯甲色ニ變シ質粘硬トナリ食味モ下落スルモノナルニ本品ハ其憂ナク其齒切レ良キ點ニ於テ一層一般向ナル點勝レルカ如ク然モ價低廉ナルヲ以テ獎勵スベキ製品ナリト思惟ス

(ロ) 收足膜利用試験

本品ハ之レヲ串刺調味乾燥品ニ作製セシガ外觀甚ダ奇ニシテ然モ色彩面白キモ原質頗ル硬固ニシテ齒切不良之レヲ燒クハ甚シク收縮スルノ諸欠點ヲ有スルト其量少キヲ以テ大量ノ製品ヲ得難キモチニノ利用トシテハ又一考ニ價スルモノ、如シ

一、佃煮軟化試験

元來貝類ヲ原料トセル佃煮ガ醬油ヲ使用シ長時間沸煮セラル、結果硬化セラレ食味ヲ遞減スルコト甚

シキヲ以テ之レガ軟化ヲ計ルト共ニ等シク保藏シ得ラル、製品ノ作製試験ヲ行フ目的ヲ以テ左記三種ノ材料ヲ使用シタル結果左ノ如シ

(イ) 脂油使用試験

從來支那料理ガ原料ニ乾固セル魚貝類ヲ使用シ然モ頗ル柔軟ニ調理セラレツ、アルハ脂油ヲ使用スルニ依ルモノナルヲ以テ方法ヲ劑高尚煮ニ準シ試験ヲ行ヒタルモ脂油使用ノ結果醬油ノ侵透不良色付不充分ニシテ之レヲ充分ナラシムル程度ノ長時間煮熟ヲ行フ時ハ遂ニ硬化ヲ免レズ而モ特異臭ヲ附ス欠點ヲ有セリ

(ロ) 重曹及炭酸アムモニヤ使用試験

軟化劑トシテ兩者ヲ試用セルニ何レモ發泡沸騰甚シク爲ニ液ハ短時間ニ濃縮シ外部ノ色付ハ即時行ハレ然モ内部ニ浸透スルニ至ラザルニ液ハ粘稠トナリ處用ノ色澤ヲ得ズ軟化ニ對シテモ見込ナキガ如シ

傳書鳩試驗

本試験ハ漁業通信ニ使用ノ目的ヲ以テ大正十年度ヨリ繼續施行中ナリシモ大正十二年度ニ鳩舎ヲ本場ノ一側ニ移轉シタル結果遠距離ノ放鳩演習ヲ行フコトヲ得ズ鳩舎馴致ニ從事シ大正十三年三月ヨリ六月迄孵化蕃殖ヲ行ヒ七月ヨリ漸次遠距離ノ放鳩訓練ヲ開始シ爾後所屬船ノ每航海ニ携行シ之ヲ放チ海上ノ狀

況及漁況ノ實用通信ヲ施行セリ

一、訓練

親ハ大正十二年中鳩舎並ニ鳩舎所在地ニ馴致スルノ目的ニテ舎外運動ハ之ヲ自由ニシタル結果殆ンド堂鳩ト全様ノ状態トナリ出舎セシムレバ地上其他ノ場所ニ降下シ又如何ニ呼ベ共來ラズ故ニ四月以降六月迄ノ間孵化蕃殖ヲ行フト共ニ舎外ノ動作ヲ漸次規律的ニ行ヒシ結果良好トナリ飛翔ノ程度モ旺盛トナリシ爲七月ヨリ一糵ノ四方向訓練ヨリ開始シ近距離ヲ充分熟練シタル後海上ニ移リ九月中ニ海上四十糵ノ地點ヨリ復歸スル事トナリシヲ以テ十月ヨリ所屬船ト本鳩トノ間ノ實用通信ヲ開始シタルニ當初ハ多數ノ失鳩ヲ生ジタルモ殘部ノモノハ漸次延長シテ十二月初旬ニハ壹州瀬戸浦附近ヨリ放鳩スルモ完全ニ其任務ヲ遂行スルニ至レリ

雛鳩ハ巢立後親鳩ト共ニ鳩舎ニ收容シ飛翔ノ度旺盛トナルニ從ヒ親鳩ト全時ニ出舎セシメ周圍ノ狀況地勢等ヲ觀察セシメ其附近ヲ飛翔シ能ク呼入ニ應ジ歸房スルニ至レルヲ以テ生後三ヶ月ヨリ五百米乃至一千米ノ近距離ヨリ放チ四方向地ヲ充分熟練シタル後親鳩ト共ニ海上ノ實用通信ニ從事セシメタリ

一、實用通信成績左表ノ如シ

放鳩月日	放鳩地點	方向	巨離	平均時間	通信要旨
一〇、一	玄海島ヲ去ル西北七坪ノ地點	西北微西	三十糵	一時十分	漁況報告 (玄海丸)
全三	小呂島右舷正横	西五北	五十糵	一時	荒天報告 (全)
全三〇	小呂島附近	全	全	一時十五分	荒天報告及動靜報告(全)
一一、一八	小呂島ヨリ	全	全	一時十分	動靜報告 (全)
全一九	津屋崎沖合	北三十	三十糵	四十分	違反船逮捕報告 (全)
全二〇	小呂島ヨリ	西五北	五十糵	一時	動靜報告 (全)
全二二三	小呂島ヨリ相島ニ向フ中間	西北微北	三十二糵	二時十分	全 (全)
全二四	相島	北二十	二十糵	四十分	相島避難報告 (全)
全二六	殘島附近	西北微西	十糵	二十五分	宮ノ浦避難報告 (沖島丸)
全二七	大島西側山頂	北東微東	三十五糵	五時四十五分	動靜報告 (玄海丸)
全二九	玄海島附近	西二北	十糵	三時	動靜報告 (沖島丸)
全三〇	相島ヨリ	北二十	十糵	一時〇分	相島避難報告 (全)

一、三〇	芥屋浦	西微北	三	十	新	一時十分	避難報告	(玄海丸)
一、一	小呂島ヨリ	西北	五	十	新	一時十分	動靜報告	(全)
全 四	壹州魚釣崎ヲ去ル 北東五澤	西北微北	七	十	新	一時間三十分	全	(全)
全 六	壹州瀬戸浦	西北	七	十	新	四時間	全	(全)
全 一一	西戸崎附近	北	十		新	十五分	遭難船救助報告	(全)
全 二〇	小呂島ヨリ	西北	五	十	新	一時十分	小呂島寄港報告	(全)
全 二二	栗上瀬ヨリ 小呂島ニ向五澤點	北	三	十	新	三十分	動靜報告	(全)
一、一九	小呂島西半澤	西北微西	五	十二	新	一時四十分	違反船逮捕報告	(全)
全 二八	津屋崎	東北	二	十三	新	五十五分	講習會ノ狀況報告	(全)
全 二九	勝島瀬合	北北東	三	十五	新	一時	動靜報告	(全)
二、二五	經子崎附近	西北	十	五	新	五十五分	全	(全)
三、一二	弘浦附近	西北	十	五	新	三十分	避難船救助報告	(全)
全 一二	志賀島浦	北北西	十	三	新	二十分	避難船救助途中ニ 於ケル狀況報告	(全)

一、産卵解化

舍外ノ運動ヲ規律的ニ訓練スルト全時ニ産卵解化ニ從事セシメタル爲再三再四ノ絶食又ハ減食等ニ依リ雛鳩ノ發育狀態並ニ抱卵ノ狀態惡シク比較的多數ノ斃死雛及腐敗破損卵ヲ出セリ今之ヲ表示スレバ左ノ如シ

三、二七	支那島ヨリ小呂島 ニ向七六澤	西三北	十	新	五十分	動靜報告	(全)	
全 二八	栗上瀬ヨリ小呂島 ニ向フ三澤	北北西	三	十五	新	五十分	動靜報告	(全)

一、鳩ノ衛生狀態

鳩ノ衛生ニ就テハ鳩舍内ノ消毒、餌料ノ乾燥、給水ノ更新等ニ充分注意セシ結果一般ニ衛生狀態良好ニシテ親鳩二羽病氣ノ爲斃死セルノミナリ、雛モ亦一般ニ良好ナリシモ、前記通り發育不良ニシテ稍々多數ノ斃死鳩ヲ出シタレ共モ病氣ノ爲斃死セルモノナシ

親鳩	抱卵回数	解化數	斃死鳩數	破損	腐敗	健全鳩數
十四番	六十四個(卅二回)	五二	六	五	五	四六羽

一、餌料

餌料トシテハ従前ノ通り白豌豆、玉蜀黍、玄米、菜種ニシテ其ノ日量左表ノ如シ

品	種	朝	夕	備	考
白豌豆	二合	三合		飼與ハ五十羽ニ對スル一回分 訓練、氣候ノ關係及鳩ノ肥瘠ニ依 リ加減スルモノトス 産卵孵化期ニ於テモ加減スルモノ トス	
玉蜀黍	二合	三合			
玄米	五勺	五勺			
菜種	五勺	五勺			

一、現在鳩番號左表ノ如シ

性別	鳩番號	生年月日	特徵	性別	鳩番號	生年月日	特徵
雄	一三四九		灰胡麻	雌	一八二八		灰胡麻
全	六一		灰胡麻	全	一一三九		灰胡麻
全	八〇		灰栗二引	全	四九		灰胡麻
全	一一九		灰栗二引	全	八二		灰胡麻
全	一一七		灰栗二引	全	八四		灰胡麻
全	一一一		灰栗二引	全	一〇五		灰胡麻
全	一二七		灰栗二引	全	〇九		灰胡麻

全	一一一	灰胡麻	全	一一二	灰胡麻
全	一一二	灰胡麻	全	一一三	灰胡麻
全	一一三	灰胡麻	全	一一四	灰胡麻
全	一一四	灰栗二引	全	一一五	灰胡麻
全	一一五	灰栗二引	全	一一六	灰胡麻
全	一一六	灰栗二引	全	一一七	灰胡麻
全	一一七	灰栗二引	全	一一八	灰胡麻
全	一一八	灰栗二引	全	一一九	灰胡麻
全	一一九	灰栗二引	全	一二〇	灰胡麻
全	一二〇	灰栗二引	全	一二一	灰胡麻
全	一二一	灰栗二引	全	一二二	灰胡麻
全	一二二	灰栗二引	全	一二三	灰胡麻
全	一二三	灰栗二引	全	一二四	灰胡麻
全	一二四	灰栗二引	全	一二五	灰胡麻
全	一二五	灰栗二引	全	一二六	灰胡麻
全	一二六	灰栗二引	全	一二七	灰胡麻
全	一二七	灰栗二引	全	一二八	灰胡麻
全	一二八	灰栗二引	全	一二九	灰胡麻
全	一二九	灰栗二引	全	一三〇	灰胡麻
全	一三〇	灰栗二引	全	一三一	灰胡麻
全	一三一	灰栗二引	全	一三二	灰胡麻
全	一三二	灰栗二引	全	一三三	灰胡麻
全	一三三	灰栗二引	全	一三四	灰胡麻
全	一三四	灰栗二引	全	一三五	灰胡麻
全	一三五	灰栗二引	全	一三六	灰胡麻
全	一三六	灰栗二引	全	一三七	灰胡麻
全	一三七	灰栗二引	全	一三八	灰胡麻
全	一三八	灰栗二引	全	一三九	灰胡麻
全	一三九	灰栗二引	全	一四〇	灰胡麻
全	一四〇	灰栗二引	全	一四一	灰胡麻
全	一四一	灰栗二引	全	一四二	灰胡麻
全	一四二	灰栗二引	全	一四三	灰胡麻
全	一四三	灰栗二引	全	一四四	灰胡麻
全	一四四	灰栗二引	全	一四五	灰胡麻
全	一四五	灰栗二引	全	一四六	灰胡麻
全	一四六	灰栗二引	全	一四七	灰胡麻
全	一四七	灰栗二引	全	一四八	灰胡麻
全	一四八	灰栗二引	全	一四九	灰胡麻
全	一四九	灰栗二引	全	一五〇	灰胡麻
全	一五〇	灰栗二引	全		

漁業基本調査

(1) 筑前海干潟實測

(イ) 糸島郡加布里灣干潟實測

技師 森 藤 三 郎
技手 井 上 多

大正十三年四月ヨリ測量ニ從事シ、沿岸線ハ加布里村大字加布里ヨリ小富士村大字邊田ヲ通り、同村大字寺山地先迄ヲ測量シ、干潟ハ以上ノ沿岸地先ニ於テ大千潮線迄ヲ視距測量法ニ據リ測量シ、併セテ土

質及干潟定着生物分布狀況ヲ調査シ六月全部ヲ終了セリ

(ロ) 糸島郡今津灣干潟實測

加布里灣ノ測量終了後今津灣ノ測量ニ從事シ、沿岸線ハ今津村濱崎ヨリ元岡村地先ヲ經テ今山ノ灣口ニ至ル間ヲ測量シ、干潟ハ大千潮線迄ヲ測量シ併セテ土質及生物分布狀況ヲ調査シタルガ九月全部ヲ完了セリ

(ハ) 洞海灣干潟實測

十月ヨリ洞海灣干潟測量ニ從事シ三角測量ト干潟ノ一部分ノ測量ヲ施行セリ

(2) 海洋觀測

(イ) 玄界灘橫斷觀測

技手 安西清
玄海丸船長 熊井繁太郎

大正元年ヨリノ繼續事業ニシテ從來ノ通り農林省海洋調査部ノ指示事項ニ基キ試驗船玄海丸ヲ以テ博多灣口ヨリ對馬嚴原沖ニ至ル間ヲ七點ニ分チテ毎月々初一回之レヲ施行シタリ、但シ八月ハ業務ノ都合ニ依リ欠測シタルヲ以テ之レヲ除キ其他十一月ニ付大要ヲ示セバ左ノ如シ

觀測點ノ位置

第一點 玄界島西北端ヨリ北西一哩

水深 一八米

第二點	同	十哩	同	二七米
第三點	同	十九哩	同	四七米
第四點	同	二十八哩	同	八二米
第五點	同	三十七哩	同	九一米
第六點	同	四十六哩	同	一〇九米
第七點	同	五十五哩(嚴原沖一哩)	同	四五米

氣溫

週年ヲ通シテ最高溫度ハ七月第五點ニ現ハレ二六、七度ヲ示シ最低溫度ハ一月及二月ニ於テ共ニ第七點ニ現ハレ八、〇度ヲ示セリ、又各點一ヶ月平均溫度ニ於テハ七月ガ最高ニシテ二五、九度ヲ示シ最低ハ二月ニシテ八、八度ヲ示セリ、一ヶ年平均氣溫ハ一七、五度ナリ、而シテ一、二、三、四月及十二月ハ月平均溫度ガ年平均溫度ヨリ低ク其他ニ於テハ之レニ反ス
之レヲ前年ニ比スレハ各點最高ニ於テハ全ク同様ニシテ最低ニ於テハ本年ノ方一、一度高ク平均ニ於テハ〇、五度低シ

各月氣溫表

月次	觀測點							平均
	第一點	第二點	第三點	第四點	第五點	第六點	第七點	
一月	一二、〇	九、〇	八、五	八、九	一〇、〇	九、四	八、〇	九、四
二月	一〇、〇	九、五	九、〇	九、〇	九、一	六、九	八、〇	八、八
三月	一六、〇	一四、一	一五、一	一二、二	一四、〇	一四、一	一四、三	一四、二
四月	一三、二	一一、四	一二、八	一二、八	一二、七	一二、二	一三、一	一二、六
五月	二二、四	二二、五	一七、二	一六、七	一六、〇	一六、〇	一五、〇	一七、七
六月	二二、九	二〇、八	二二、二	二一、〇	二一、四	二一、二	二一、〇	二一、二
七月	二四、六	二五、七	二七、一	二六、六	二六、七	二五、三	二五、五	二五、九
八月	欠測							
九月	二六、五	二五、九	二七、一	二六、二	二六、二	二五、六	二五、四	二四、七
十月	二〇、八	二三、五	二五、〇	二六、五	二五、〇	二四、一	二一、〇	二三、七
十一月	一六、五	一八、〇	一八、三	一八、五	二〇、〇	一七、九	一七、〇	一八、〇
十二月	一三、七	一五、五	一七、三	一七、四	一六、〇	一四、五	一五、五	一五、七
年平均								一七、五

水 温

各點ヲ通ズル最高温度ハ九月第二點ニ現ハレ二八、七度ヲ示シ最低ハ二月第一點ニ現ハレ一一、九度ヲ示セリ、一ヶ月平均温度ニアリテハ最高ハ九月ニシテ二四、五度ヲ示シ最低ハ三月ニシテ一三、三度ヲ示セリ。一ヶ月平均温度ハ一八、一度ナリ而シテ一、二、三、四、五月及十二月ハ月平均温度ガ年平均温度ヨリ低ク其ノ他ハ之レニ反ス之ヲ前年ニ比スレハ月平均最高温度ハ本年ノ方〇、八度、最低ニ於テハ〇、七度高シ、又年平均ニ於テハ前年ノ方〇、七度高キヲ見タリ

各月各點平均水温表

月次	觀測點							平均
	第一點	第二點	第三點	第四點	第五點	第六點	第七點	
一月	一三、七	一六、三	一六、二	一六、六	一六、八	一六、五	一六、〇	一六、〇
二月	一一、九	一三、一	一四、五	一四、五	一四、四	一三、六	一四、七	一三、八
三月	一一、二	一三、二	一三、三	一三、六	一三、九	一四、一	一三、一	一三、三
四月	一三、二	一四、一	一四、八	一三、五	一三、九	一四、二	一四、一	一三、九
五月	一六、四	一六、八	一三、四	一六、三	一六、〇	一六、七	一六、一	一五、九
六月	一九、四	一八、四	一八、六	一九、一	一八、七	一八、五	一七、九	一八、六
七月	二二、七	二二、二	二二、一	二二、〇	二〇、七	二二、二	二〇、八	二一、六

年	十二月	十一月	十月	九月	八月
欠				二八、六	二八、七
測			二二、四	二八、七	二四、五
年平均	一六、二	一九、五	二二、四	二四、五	二四、二
	一七、九	二一、二	二二、〇	二四、二	二四、二
	一八、三	二一、六	二二、三	二四、二	二四、二
	一八、六	二一、九	二二、三	二四、二	二四、二
	一九、一	二一、六	二二、九	二四、二	二四、二
	一七、七	二一、六	二〇、八	二一、〇	二一、〇
	一七、八	二一、九	二二、二	二二、五	二二、五
	一八、一	二一、三	二二、八	二四、五	二四、五

週年各點ヲ通ズル最高比重ハ四月第七點ニ現ハレ二六、三四ヲ、最低ハ九月第七點ニ現ハレ二三、六四ヲ示シ其較差〇二、七〇ナリ。月平均ニ於テハ最高ハ四月ニシテ二六、二五ヲ最低ハ九月ニシテ二三、六四ヲ示シ其ノ較差〇二、六一ナリ。而シテ一ヶ年平均比重ハ二五、六九ニシテ一、三、四、五、六、十二月ニ於テハ月平均示度ガ年平均示度ヨリ高ク殊ニ四月ニ於テ著シキヲ見タリ。又七、九、十月ハ之レニ反シ特ニ九月ニ著シク二、十一月ハ兩者相彷彿タル状態ニアリタリ、之レヲ前年ニ比スルニ各點最高ニ於テハ前年ハ〇〇、五二高ク最低ニ於テモ亦〇〇、九六高度ヲ示セリ月平均ニ於テハ前年モ本年モ共ニ四月ニ著シク高ク又前年ノ最低ハ七月ナリシガ本年ハ九月ナリキ、年平均ニ於テハ本年ハ前年ニ比シ約〇〇、六二高キヲ見タリ

比 重

各月各點平均比重表

(數字ノ上一、〇ヲ消去ス)

月次	第一點	第二點	第三點	第四點	第五點	第六點	第七點	平均
一月	二五、七五	二五、八三	二五、八八	二五、八六	二五、八七	二五、八四	二五、七七	二五、八二
二月	二五、七二	二五、七一	二五、五九	二五、六一	二五、七一	二五、七五	二五、七二	二五、六八
三月	二五、八二	二六、二〇	二五、七四	二五、五五	二五、七五	二六、二〇	二五、九八	二五、八九
四月	二六、〇八	二六、二六	二六、三〇	二六、二二	二六、二三	二六、三二	二六、三四	二六、二五
五月	二五、八四	二五、六七	二五、八七	二五、八二	二五、八七	二五、七〇	二五、九五	二五、八一
六月	二六、〇六	二五、九五	二五、九五	二五、八三	二五、八〇	二五、九二	二五、七三	二五、八九
七月	二五、六二	二五、七三	二五、六三	二五、六一	二五、六二	二五、一四	二五、二七	二五、五三
八月	欠	測						
九月	二四、九〇	二五、二二	二五、三九	二五、四〇	二四、三六	二四、〇六	二三、六四	二四、七一
十月	二五、二〇	二五、三九	二五、五六	二五、六七	二五、七〇	二五、二四	二五、一一	二五、五五
十一月	二五、三四	二五、五三	二五、六一	二五、七九	二五、八〇	一五、九二	二五、七七	二五、六八
十二月	二五、五五	二五、六九	二五、七八	二五、七七	二五、八五	二五、八八	二五、七七	二五、七五
年平均								二五、六九

(口) 豊前海横断観測

三〇
技手 安西 清
全 石橋 亘

大正五年度ヨリノ繼續事業ニシテ従前ノ通り主務省ノ指示ニ基キ毎月々初一回試験船英彦丸ヲ以テ之レヲ施行シタリ、其ノ概要左ノ如シ

観測點ノ位置

- 第一點 宇島沖北々東 二哩
- 第二點 同 六哩半
- 第三點 同 十一哩
- 第四點 同 十五哩半 (山口縣御崎沖)
- 第五點 同 九哩四分ノ一
- 第六點 同 五哩四分ノ一
- 第七點 同 一哩四分ノ一
- 第八點 同 五哩四分ノ三
- 第九點 同 九哩四分ノ一
- 第十點 同 十二哩四分ノ三 (山口縣本山沖)

氣 温

週年各點ヲ通ズル最高温度ハ七月第一點第二點及八月第六點ニ現ハレ二六、七度ヲ、最低ハ二月第二點ニ現ハレ六、四度ヲ示シ其ノ較差二〇、三度ナリ、月平均ニ於テハ最高ハ八月ニシテ二六、一度ヲ最低ハ三月ニシテ八、五度ヲ示シ其較差一七、六度ナリ、年平均温度ハ一六、一度ニシテ一、二、三、十一、十二月ハ年平均温度ガ月平均温度ヨリ高ク其他ハ之レニ反ス

各月氣温表

月	第一點	第二點	第三點	第四點	第五點	第六點	第七點	第八點	第九點	第十點	平均
一月	七、四	七、五	八、四	八、四	九、九	九、四	八、九	九、六	九、四	八、九	八、八
二月	七、六	六、四	八、八	八、六	九、四	九、一	一〇、九	八、四	九、二	九、四	八、八
三月	七、九	六、九	八、四	八、六	八、九	八、九	九、四	八、四	八、九	八、九	八、五
四月	一七、六	一六、八	一五、七	一七、二	一七、六	一七、二	一七、三	一七、九	一六、七	一六、二	一七、〇
五月	一八、九	一五、四	一五、四	一五、七	一九、六	一九、六	一九、〇	一八、七	一八、六	一八、六	一八、〇
六月	二二、七	二一、四	二一、一	二〇、〇	二二、二	二二、一	二一、一	二一、一	二二、六	二二、八	二一、六
七月	二六、七	二六、七	二五、七	二六、二	二六、二	二五、七	二五、三	二五、六	二六、四	二五、五	二六、〇
八月	二五、五	二五、五	二六、五	二六、五	二六、六	二六、七	二六、五	二五、四	二六、〇	二六、二	二六、一
九月	二一、〇	二一、六	二一、四	二一、二	二一、五	二一、四	二一、四	二一、四	二一、四	二二、四	二一、五

月	第一點	第二點	第三點	第四點	第五點	第六點	第七點	第八點	第九點	第十點	平均
十月	一七、一	一六、九	一七、四	一六、八	一八、〇	一八、〇	一七、九	一七、九	一七、二	一七、一	一七、四
十一月	一四、三	一四、三	一五、五	一六、六	一六、四	一五、九	一七、九	一八、九	一八、一	一六、二	一六、四
十二月	一〇、七	九、四	九、七	一〇、五	一〇、一	一〇、五	一一、四	一二、二	一〇、九	九、七	一〇、五
年平均											一六、七

水 温

各點ヲ通ズル最高水温ハ七月第七點ニ現ハレ二六、七度ヲ最低ハ二月第一點ニ現ハレ七、一度ヲ示シ其較差一八、五度ナリ、年平均水温ハ一六、一度ニシテ一、二、三、四月及十一、十二月ハ月平均温度ガ年平均温度ヨリ低ク其他ハ之レニ反スルヲ見タリ

各月各點平均水温表

月	第一點	第二點	第三點	第四點	第五點	第六點	第七點	第八點	第九點	第十點	平均
一月	八、二	八、五	八、七	九、四	八、七	八、三	七、九	八、一	七、七	八、二	八、四
二月	七、一	七、二	七、五	七、三	七、九	七、六	七、二	七、二	七、六	七、五	七、四
三月	七、八	七、九	八、五	八、三	八、五	八、一	八、三	八、五	九、七	九、四	八、五
四月	一三、九	一三、五	一二、一	一三、〇	一二、五	一三、五	一五、一	一三、七	一三、九	一三、四	一三、五
五月	一六、四	一六、一	一六、五	一七、二	一七、九	一七、二	一七、二	一七、六	一七、六	一七、六	一七、一

月	第一點	第二點	第三點	第四點	第五點	第六點	第七點	第八點	第九點	第十點	平均
六月	二〇、四	一八、八	一八、八	一八、四	一八、八	二〇、〇	二〇、二	一九、八	二〇、一	一九、五	一九、五
七月	二六、四	二五、五	二五、三	二五、一	二五、四	二六、五	二六、七	二六、二	二六、一	二四、九	二五、九
八月	二五、一	二五、一	二五、三	二五、三	二五、五	二五、四	二五、八	二五、九	二五、九	二五、八	二五、五
九月	二三、八	二三、二	二三、八	二三、一	二三、五	二三、二	二三、四	二三、二	二三、四	二三、二	二三、三
十月	一八、四	一九、〇	一九、〇	一八、六	二〇、二	一九、六	一七、六	一八、五	一九、一	一八、七	一八、九
十一月	一五、五	一四、三	一五、五	一五、六	一六、六	一四、九	一四、五	一四、六	一四、八	一五、〇	一五、一
十二月	一〇、〇	一〇、三	一〇、一	一〇、六	一〇、五	一〇、八	八、五	九、八	九、三	九、四	九、九
年平均											一六、一

比 重

各點ヲ通ズル最高比重ハ三月第四點ニ現ハレ二四、八三ヲ、最低ハ九月第七點ニ現ハレ二一、八六ヲ示シ其較差〇二、九七ナリ、月平均ニ於テハ最高ハ三月ニシテ二四、五八ヲ最低ハ九月ニシテ二二、三七ヲ示シ其較差〇二、二一ナリ。年平均比重ハ二三、九〇ニシテ一、二、三、四月及七、十、十一、十二月ハ月平均示度ガ年平均示度ヨリ高ク其他ハ之レニ反ヌ而シテ本年ハ前年ニ(一、二、三、四十二月ノ欠測月ヲ除キ)比シ概シテ比重高キヲ見タリ

各月各點平均比重表

月次	観測點										平均	
	第一點	第二點	第三點	第四點	第五點	第六點	第七點	第八點	第九點	第十點		
一月	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四	二四、二四
二月	二四、三〇	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八	二四、〇八
三月	二四、六七	二四、六九	二四、八二	二四、八三	二四、八三	二四、八三	二四、八三	二四、八三	二四、八三	二四、八三	二四、八三	二四、八三
四月	二四、二二	二四、三三	二四、〇六	二四、〇六	二四、〇六	二四、〇六	二四、〇六	二四、〇六	二四、〇六	二四、〇六	二四、〇六	二四、〇六
五月	二四、八八	二四、八七	二四、三六	二四、三六	二四、三六	二四、三六	二四、三六	二四、三六	二四、三六	二四、三六	二四、三六	二四、三六
六月	二四、〇二	二四、〇七	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三
七月	二四、七二	二四、一九	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三	二四、九三
八月	二四、〇三	二四、九八	二四、八〇	二四、八〇	二四、八〇	二四、八〇	二四、八〇	二四、八〇	二四、八〇	二四、八〇	二四、八〇	二四、八〇
九月	二四、八五	二四、一八	二四、七〇	二四、七〇	二四、七〇	二四、七〇	二四、七〇	二四、七〇	二四、七〇	二四、七〇	二四、七〇	二四、七〇
十月	二四、八四	二四、〇〇	二四、二七	二四、二七	二四、二七	二四、二七	二四、二七	二四、二七	二四、二七	二四、二七	二四、二七	二四、二七
十一月	二四、六四	二四、四八	二四、六〇	二四、六〇	二四、六〇	二四、六〇	二四、六〇	二四、六〇	二四、六〇	二四、六〇	二四、六〇	二四、六〇
十二月	二四、五九	二四、五〇	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五
年平均	二四、五九	二四、五〇	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五	二四、五五

(ハ) 有明海横断観測

技師 藤森三郎
 助手 海部清利

一、海水比重

大正十三年ハ比重一般ニ大ニシテ、年最高ハ各年ニ比シ甚ダシク大ナラザリシモ、年平均比重ハ既往観測中最大ヲ示セリ。月ニヨル比重ノ變化度ハ一般ニ少ク、殊ニ毎年六月中旬ヨリ七月ニカケテハ、梅雨ノ影響ニヨリ比重大低下ヲ來スニ本年ハ著シカラサリキ、爲ニ時期ニヨル變化ハ、例年ニ比シ著シク小ニシテ、一月二月及九月以降ニ於テ僅カニ低キヲ示セルノミナリ

二、水 温

本年上半期ノ水温ハ一般ニ例年ヨリ〇、五度一度低ク、從ツテ同温度ノ出現期ハ例年ニ比シ十日乃至十五日位遅レタリ、然ルニ六月乃至八月ニ於ケル夏期ノ水温ハ、例年ヨリ高温ヲ示セリ。而テ九月以後ハ水温ノ下降急激ニシテ、例年ニ比シ一週間乃至二週間早ク冷却セリ

三、竹崎燈臺観測摘要

(八月及十月欠測)

水		温	
年 最 高	年 最 低	二十度以上ノ月	十三度以下ノ月
八月 欠測ノタメ不明ナルモ八月ヲ除ケバ九月最高ニシテ表面二十六度三分底面二十六度ヲ示セリ	二月下旬 (表面平均 九度八分 底面平均 八度九分)	六月・十月	一月・三月及十二月

重		比	
平均	各點全部	年最	年最
二二、〇〇以上ノ月	二二、〇〇以下ノ月	最低	最高
一月十二日	ナシ	五月中旬 (平均二三、一一)	四月下旬 (平均二四、〇二)
八月及十月ハ欠測ノタメ不明ナルモ他ノ觀測ノ結果ヨリ推定シテ二三、〇〇以上ト認ム	ナシ	一月四月、六月七月、十二月 (八月及十月ハ欠測ノタメ不明)	

養魚試驗

(イ) 侍島養魚場鯉卵鯉兒配付

技手 安西清 全的場音助

大正三年度ヨリノ繼續事業ニシテ淡水養魚普及獎勵ノ目的ヲ以テ三瀨郡木佐木村侍島養魚場ニ於テ鯉卵鯉兒ヲ採卵、養成シテ當業者ノ希望ニ應ジ之レヲ配付シタリ

採卵ニ用ヒタル親鯉ハ雌雄合計一七八尾、内雌四八尾雄一三〇尾ニシテ其体形雌ハ最大体長一尺七寸体重一貫四百匁、最小体長一尺体重百十匁、雄ハ最大体長一尺九寸二分体重一貫三百匁、最小体長一尺体重百匁ニシテ年齢ハ雌雄ヲ通ジテ三才ヨリ八才マデノモノナリ

採卵ハ四月二十七日ヨリ六月二十八日迄ノ間ニ於テ四回之レヲ行ヒ、其採卵數ハ總計六百四十五萬粒ニシテ内三十萬粒ハ卵ノマ、配付シ殘ハ六百十五萬粒ヲ孵化用ニ供シタリ。各回ヲ通シテ何レモ三、四日ニシテ孵化シ孵化兒二百九十五萬尾ヲ得タリ而シテ之レヲ一寸五分以上ニ成長セシメタルニ種苗總計九萬四千九百七十尾ヲ收得シタリ

配付六月十四日ヨリ始メ初生兒ハ主トシテ稻田養鯉種苗トシテ配給シ、溜池ニ放養スルモノニ對シテハ秋期迄飼育シタル後ニ之レヲ配付シタリ、斯クシテ十二月五日ニ至リテ配付ヲ終了シタリ。其區域ハ三瀨、三池、三井、浮羽、八女、粕屋、鞍手、朝倉、福岡、筑紫、宗像ノ一市十郡四十ヶ所ニ亘リ有價九萬一千二百七十尾(此金額四百五十六圓三十五錢)無價三千七百尾總計九萬四千九百七十尾ヲ配付シタリ尚之レヲ表示スレバ左ノ如シ

採卵用親鯉表

事項	第一回		第二回		第三回	
	雌	雄	雌	雄	雌	雄
數	二〇尾	五〇尾	二〇尾	六〇尾	四尾	一〇尾
體長	一尺五寸	一尺二寸	一尺七寸五分	一尺三寸	一尺七寸	一尺七寸
體形	大七百五十匁	大八百六十匁	大七百六十匁	大七百六十匁	大六百五十匁	大六百五十匁
體長	一尺二寸	一尺九寸二分	一尺九寸二分	一尺九寸二分	一尺九寸七分	一尺九寸七分
體形	大六百三十匁	大六百三十匁	大六百三十匁	大六百三十匁	大六百三十匁	大六百三十匁
年	四一七	四一七	四一七	四一七	四一八	四一八
雌	三一五	三一五	三一五	三一五	三一五	三一五

第四回	四尾	一〇尾	大小 一尺七寸大 一尺四寸大 一尺一寸大 一尺六分大 尺小 百五十尾 百二十尾	五十八	三十一六
計	四八尾	一三〇尾			

採卵回数	採卵事項		採卵數	孵化時	孵化數	孵化率
	產卵時	採卵時				
第一回	自四月二十七日 至四月二十八日	自五月十一日 至五月十二日	二〇〇、〇〇〇粒	自四月三十日 至五月二日	一〇〇、〇〇〇尾	五割
第二回	自五月十一日 至五月十二日	自五月十四日 至五月十五日	三五〇、〇〇〇	自五月十四日 至五月十五日	一七五、〇〇〇	五割
第三回	自六月四日 至六月五日	自六月六日 至六月八日	五〇〇、〇〇〇	自六月八日 至六月九日	一一〇、〇〇〇	十五萬粒配付 三割一分四厘
第四回	自六月二十七日 至六月二十八日	自六月二十九日 至七月一日	四五〇、〇〇〇	自六月二十九日 至七月一日	九〇、〇〇〇	十五萬粒配付 三割
計			六四五〇、〇〇〇		二九五〇、〇〇〇	平均四割三厘五毛

(1) 鯉兒配付

郡市名	個所數	配付數	收納金額
三瀨郡	一八	三二、二三〇尾	一六二圓一五
三池郡	二	二、七〇〇	一三、五〇
三井郡	二	六、〇〇〇	三〇、〇〇
浮羽郡	二	四、五〇〇	二二、五〇
八女郡	三	二、二五〇	一一、二五
柏屋郡	二	八、五〇〇	四二、五〇
鞍手郡	二	九、〇〇〇	四五、〇〇
朝倉郡	一	五〇〇	二、五〇
福岡市	三	五、八〇〇	二九、〇〇
筑紫郡	一	八、三〇〇	四一、五〇
宗像郡	二	一一、四九〇	五七、四五
以上有價小計	三八	九一、二七〇	四五六、三五
三井郡	一	三、〇〇〇	無價
宗像郡	一	七〇〇	無價

配付數總計 九萬四千九百七十尾
 收納金額 四百五十六圓三十五錢

以上無償小計	二	三、七〇〇
總計	四〇	九四、九七〇

四〇

福岡市	一	三〇萬粒	無償
-----	---	------	----

(ロ) 豊前養魚場鯉兒配付及粗放養魚試驗

1 鯉兒配付

技手 安西清
熊谷郷介

本場ニ於テハ本年度ヨリ初メテ專業ニ着手シタルモノニシテ別項記載ノ如ク一方ニ於テ池ノ増修築又ハ新設工事施行中ニ屬シ鯉兒ノ養成ニ付テハ養魚池ノ關係其他ノ事情ニ依リ正確ナル記載ヲ列舉スル事能ハザリシヲ以テ之レヲ畧シ配付概要ノミヲ記スベシ

六月三十日ヨリ配付ヲ始メ十月十八日ニ終リ有償三萬二千五十尾此ノ收納金額百六十圓二十五錢無償一萬八千六百尾總計五萬六百五十尾ヲ配付シタリ
配付區域ハ築上、京都、企救、門司ノ一市三郡三十六ヶ所ニシテ其大要左表ノ如シ

郡市名	個所數	配付數	總計	
			總數	金額
築上郡	一五	一一、三二〇尾	五六圓六〇〇	
京都郡	一一	一一、七三〇	五八、六五〇	
企救郡	一	四、〇〇〇	二〇、〇〇〇	
門司郡	二	五、〇〇〇		
以上有償小計	三〇	三二、〇五〇	一六〇、二五〇	
築上郡	一一	一八、六〇〇	無償	
總計	三六	五〇、六五〇	一六〇、二五〇	

(無償有償共ニ配付ヲ受ケタルモノアルニ依リ總計ハ三十六ヶ所トナル)

2 汽水池粗放養魚試驗

汽水池三町步余ニ於テハ春期沂上スル鱒、鯉兒ヲ集メテ多少ノ投餌ヲナシテ其生産試驗ヲ行フ豫定ナリシモ創始當初ニシテ養鯉池造池工事其他諸種ノ事情ニ妨ゲラレ完全ニ之レヲ遂行スル能ハズ殆ンド天然ノマ、トシ、本年二月四日落水採捕シタルニ鱒百十貫五百六十匁此金八十一圓九十錢(一貫ニ付七十四錢余)鯉三貫此金八圓五十一錢(一貫ニ付二圓八十四錢弱)合計百十三貫五百六十匁金九十圓四十一錢ヲ收納シタリ

豊前養魚場新設

(1) 新設經過

技手 安 西 清

從來豊前地方ニ於テハ溜池、炭坑陥没地其他鯉魚ノ養殖ヲ行フベキ適地少ナカラズ近時之レヲ利用セン
トスルモノ漸ク多キヲ加ヘタリト雖モ種苗ノ供給之レニ添ハズ未ダ斯業ノ見ル可キモノナキヲ遺憾トシ
大正十年豊前水産會ニ於テ築上郡八津田村宇留津ニ於ケル開墾未完成地、吉原新開ニ養魚池ヲ設ケテ鯉
兒ノ配給ヲ企テタルモ經費其他種々ノ事情ニ依リテ充分當業者ノ希望ニ應ズル能ハズ遺憾ノ點少ナカラ
ザリシヲ以テ本年度ヨリ水産會ハ之レヲ本場ニ寄附移管シ本場ハ更ニ總經費四千二百三十四圓ヲ投シテ
養魚池事務所其他諸種ノ設備ヲ擴張完成シテ事業ヲ繼承シタリ

(2) 敷地沿革概要

敷地吉原新開ハ明治卅一年京都郡今元村齊藤謙吉ト稱スルモノ開墾ニ着手シタレドモ工事困難ニシテ成
完ノ見込立タズ未ダ一面ノ水澤地ニシテ其總面積七町四反歩余ヲ有スルモノナリ、水産會ハ内四町一畝
二十歩余ヲ大正十三年度中ニ於テ當時ノ土地所有者築上郡築城村椋本虎一及全郡八津田村、深江豊松ヨ
リ買取リ之レヲ造池設備ト共ニ縣ニ寄附シタリ

(3) 養魚池

敷地四町歩余ノ中上位約六反歩ニハ各種ノ池ヲ築キテ養鯉池トナシ其他ノ大部分ノ汽水溜リハ殆ンド現
狀ノマ、ニテ鰻及鰯ノ粗放の養殖池ニ充ツ而シテ水産會經營當時ノ池及之レニ本場ヨリ施シタル補修工
事並ニ新設池ノ大要ハ左ニ之レヲ表示スベシ

舊池 (水産會時代ノ施設) 及補修工事 (本場施行)

種別	番號及面積	補修工事
鯉兒飼育池	第一號池三五坪	堤防増築。池底客土。樋管、金網取替へ
全	第二號池五八坪	全。全。全
全	第三號池九六坪	全。全。全
親鯉池	雌池 一四〇坪	隔壁堤防増築。全。全
全	雄池 二八二坪	外堤防補強隔壁堤防増築。全。全

新設池 (本場施設)

種別	番號	面積	構造
鯉兒飼育池	第四號池	五十六坪。	泥池
全	第五號池	五十六坪。	全
全	第六號池	七十五坪。	全
ミジンコ養成池	第一號	五十四坪。	全
全	第二號	二百〇六坪。	全
親鯉冬園池		約二十坪。	全
產卵池	二十面	一面二坪計四十坪	セメント
孵化池	四面	一面四坪計十六坪。	セメント

(4) 事務所其他

新ニ木造平屋建、建坪十二坪余ノ事務所ヲ建築シタリ從來ノ事務所ハ極メテ狹隘ナリシヲ以テ之レヲ改造シテ餌料煮釜場及浴場ト成シ別ニ建坪八坪ノ物置一棟ヲ新築シタリ
 其他井戸二ヶ所、排水用鐵筋暗渠一ヶ所ヲ新設シテ注、排水ヲ一層便ナラシム
 尙同場ノ新設ニ關シテハ敷地ノ沿革、敷地野取圖ノ誤謬、臺帳面積ト實測面積ノ差異、土地ノ分割、所

有權ノ移轉、造池建築工事ノ細目其他詳細ナル記錄ハ別冊ヲ以テ報告スベシ

筑豊沿海干潟利用試験

(1) 加布里灣海苔養殖試験

技師 藤 森 三 郎
 技手 海 部 清 利

糸島郡加布里灣ニ於テハ、約三十年來海苔養殖ヲ經營シ來リ、現在面積約四萬坪建込漚女竹約八萬本事業者十二名ヲ有セルガ、其方法ニ於テモ亦區域ニ於テモ擴張ノ余地アルヲ以テ、別項ノ如ク全灣ノ干潟實測ヲ行フト共ニ一方ニ於テ左ノ試験調査ヲ施行セリ。

(一) 養殖適地調査

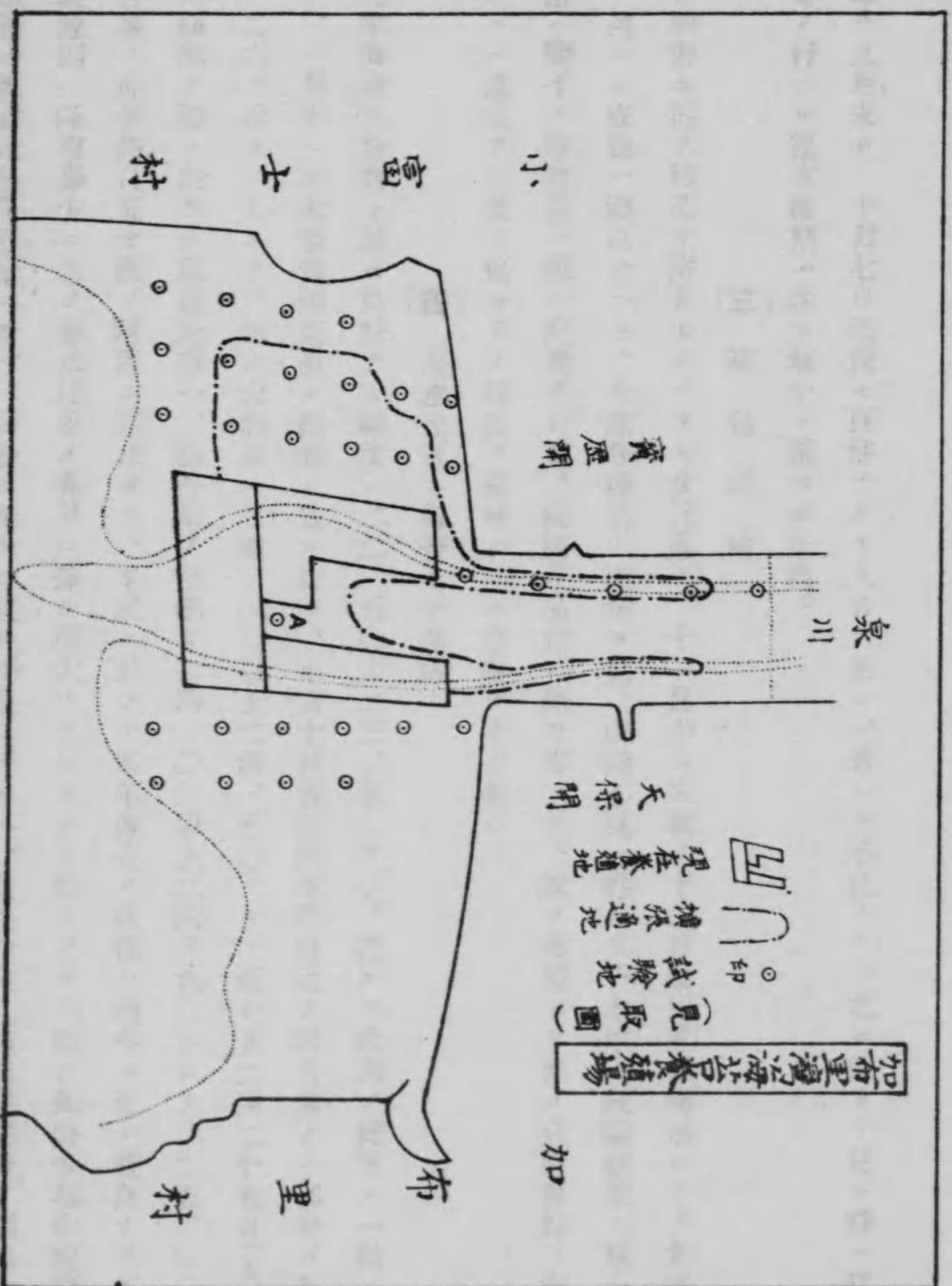
現在業者ノ養殖場以外ニ於テ更ニ擴張ノ余地アリヤ否ヤヲ調査スル爲メ別圖地點三十一ヶ所ヲ撰ミ一ヶ所三十本宛ノやじの竹ヲ九月二十九日建設セリ。結果ハ概要左圖ノ如クニテ即チ現在ノ養殖地四萬坪ニ比シ約二萬坪擴張ノ余地アルヲ認ム。但シ此區域ハ現在ノ養殖場ヨリ幾分其價值劣レリ。然レ共泉川内ノ添ハ成績頗ル良好ナリ。

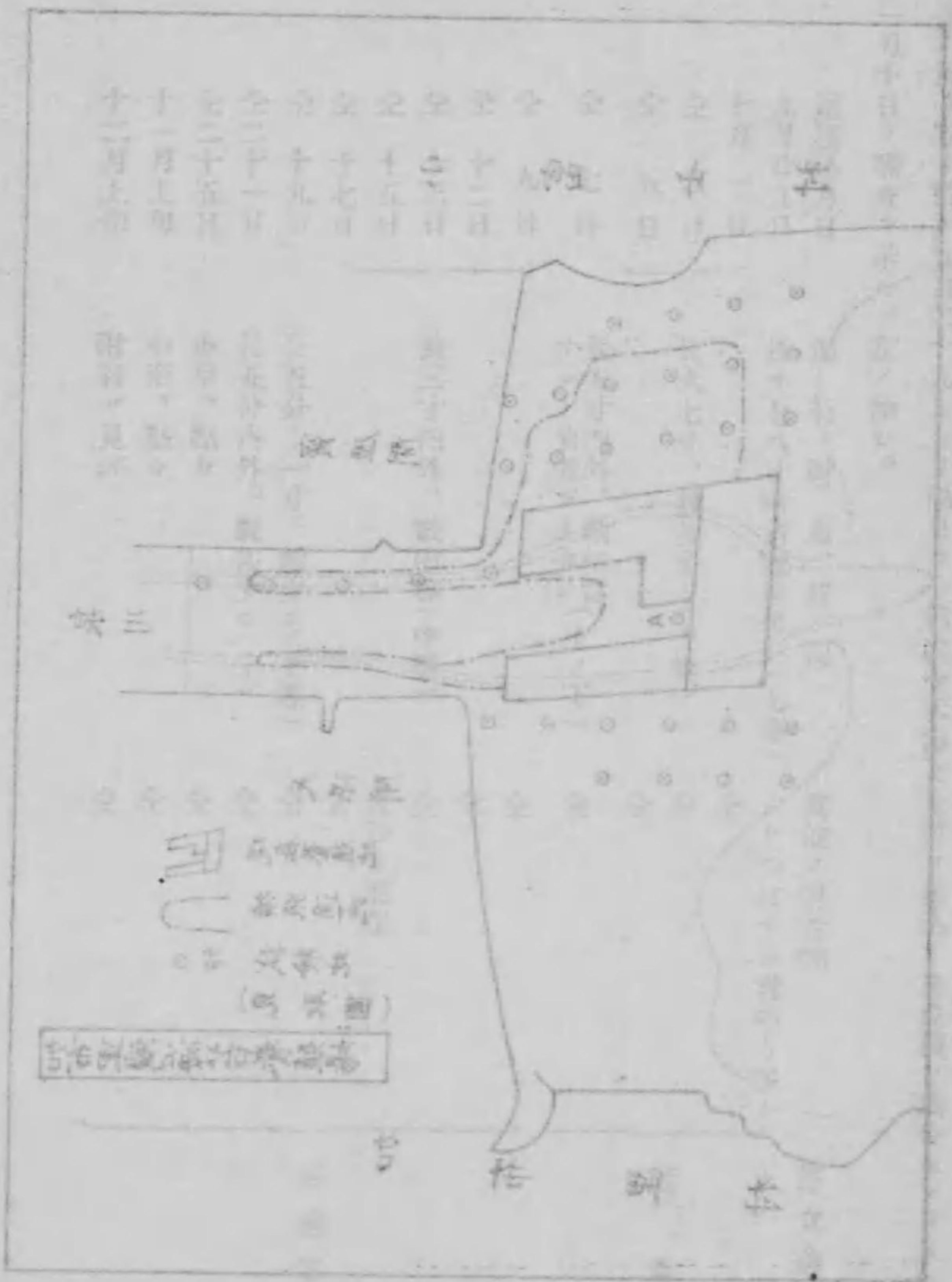
(二) 時期試験

從來此地ノ當業者ハ九月末ヨリ十月始ヲ以テ漚立時期トナセ共果シテ誤リナキヤ否ヤヲ確ムルタメ本年

度泉川尻A點ニ於テ九月二十九日ヨリ隔日ニ一回二十本宛ノ女竹ヲ建込ミ其成績ヲ調査セリ。一例トシテ一月十日ノ調査ヲ示セバ左ノ如シ。

築込月日	海苔附着狀況	其他ノ附着物	築立適否
九月廿九日	長サ七八寸附着數甚多シ(上等)	ふじつばナシ青のり多シ	適當
十月一日	長六七寸、數甚多シ(上等)		適當
全 三日	長五寸内外、數相當(上ノ下)		適當
全 五日	ナレド前者ヨリ少シ(上ノ下)		適當
全 七日	長三寸内外、數中等(中等)		適當
全 九日			適當
全 十二日			適當
全 十三日			適當
全 十五日			適當
全 十七日			適當
全 十九日	長五分一一寸。數少シ(下等)		適當
全 二十一日	長五分内外。數甚少シ(全)		適當
全 二十五日	小形、點々		適當
十一月上旬	小形、點々		適當
十二月上旬	附着ヲ見ズ		不適當





即チ九月末ヨリ十月七日迄最モ良好ナルモ九日ニ至レバ著シク不良ナリ。之ニ依リテ見ル時ハ從來營業者ノ行ヘル筈立時期ハ誤リ無シト稱スルヲ得。

(三) 移殖試験

有明海ニ於テ種苗ヲ附着セシメタル女竹笹ヲ、十一月中ニ採取リ十二日泉川尻ニ移殖セリ。其後ノ成績ヲ見ルニ成長ハ優良ナルモ、大部分種苗ノ死滅ヲ見、成績不良ニ終レリ。本年ノ試験結果ニ見ル時ハ當灣ハ孢子ノ附着量ハ頗ル豊爲ナレ共、成績及品質ハ稍々劣レリ。故ニ此地ヨリ他ノ成育良好ノ海ニ移殖スルハ意味アレ共、他ヨリノ種苗ヲ移殖スルハ意義ナキガ如シ。

(四) 海水比重ト海苔トノ關係

元來海苔ノ發育上最モ良好ナル鹹度ハ二二、五〇—二三、五〇ナリ。然ルニ此灣ノ比重ハ一般ニ大ニシテ、一月十一日大潮満潮底面ノ觀測ニ依ル時ハ、小富士村寶曆開水門附近ノ海苔場ノ一部分ガ漸ク二三、二六ヲ示スノミニテ、他ノ大部分ハ二四、〇〇以上二四、三〇ナリ。而シテ二月二十五日(大潮)満潮時觀測ノ際ニ於ケル底面比重ハ、海苔場ノ全部ガ二四、〇〇以上二四、六〇ニシテ、二五、〇〇線ハ海苔場ノ沖合約百五十間ノ附近ニ存在セリ。本灣ニ於ケル本年海苔ノ成績ハ例年ニ比シ優良ナラザリシガ其原因ハ降雨寡少ニ基ク海水比重ノ高昇ニ據ル所大ナリシモノト認メラル。而テ此海苔場中河口附近ハ海苔ノ發育及色澤良好ニシテ、沖合ニ至ルニ從ヒ不良トナルハ、要スルニ比重及營養分ノ關係ニヨルモ

ノト思惟ス。即チ二月廿五日大潮時ノ潮間觀測ニ依ル時ハ、左表ノ如クニシテ滿潮時比重ハ、上地モ中地モ比重ニ大差ナキモ、滿潮以前及以後ハ上地ニ於テ低比重ヲ受クル時間多ク、中地ニ於テハ高比重ヲ受クル時間長シ。是本灣ニ於テハ降雨多ク比重低キ年ニ豐作ヲ示ス理由ナリ。

場所	二四、〇〇以上	二三、〇〇—二四、〇〇	二二、〇〇—二三、〇〇	二一、〇〇—二二、〇〇	二〇、〇〇—二一、〇〇
河口(上地)	一三%	二二%	一九%	一五%	三二%
沖合(中地)	六六	二〇	一四	ナシ	ナシ

(五) 海苔ト地盤ノ高サトノ關係

當灣ノ大潮時潮汐干満ノ差ハ七尺五寸ナリ。而シテ海苔ノ垂直的附着帶ハ大潮線上二尺—五尺ノ間ナリ。故ニ築立場所ハ比重條件適當ノ區域ト雖モ、地盤ノ高サ四尺以下ノ地ナラザルベカラズ。

(六) 加布里灣海苔養殖振興策

前記ノ始ク當灣ニ於テ養殖上新規擴張見込地ハ漸ク現在ノ約五割ニ過ギズ。故ニ眞ニ此地ノ海苔生産額ヲ増進セシメントセバ、適地ノ擴張ノ外現在ノ養殖方法、主トシテ築立方法ノ改良ヲ肝要トス。即チ現在ノ粗放的建テ方ヲ改メ、充分ナル潮通シヲ設ケ、且ツ柵立ニ依リ築立ノ週約的建込ヲナスニアリ。然ラバ單ニ數ニ於テモ優ニ現在ノ二倍半ヲ建込ミ得ベシ。而テ更ニ築竹ノ改良ヲ行ヒ、製法並販賣ノ改善ヲ

行ハ、現在ノ生産額ヲシテ數倍ニ達セシムル事故ヘテ不可能ニアラザルベシ。

(2) 今津灣海苔養殖試驗

糸島郡今津灣瑞梅寺川尻ニ於テハ、約十年前ヨリ落中ニ築建ヲナシ養殖ヲ行ヘル者數名アリ、十三年度ニハ更ニ養殖希望者續出シ、總計三十九名建込女竹數約三萬三十本乾海苔製造高二十余萬枚ニ達セリ。然レ共其養殖方法ニ於テ未ダ改善ノ余地多ク、且現在ノ養殖場ハ一部分ニ限ラレタレ共、尙ホ他ニ擴張ノ余地アルガ如クナルヲ以テ茲ニ本試驗ヲ施行セリ。

(一) 養殖適地調査

別圖地點二十八ヶ所ニ對ル一ヶ所三十本宛ノやじの又ハ女竹ヲ十月一日ニ於テ建込ヲナシタルガ結果ハ概要左圖ノ如クニシテ即養殖適地約七、八萬坪ヲ有スル事ヲ知レリ。

(二) 時期試驗

築建期ヲ調査セムガタメ今宿村地先ニ於テ一回二十本宛ノ女竹ヲ隔日ニ建込ミ、發生狀況ノ調査ヲ行ヒタルガ今一月十二日ノ概況ヲ記セバ左ノ如シ。



九月ノ築建ハ行ハザリシタメ不明ナルモ、他ノ調査結果ヨリ推定シテ九月末ハ良好ナリト稱シ得ベシ。而テ十月七日迄ヲ最モ優良トシ以後ハ多少劣ルモ尙ホ十三四日頃迄ハ第二位ニアリ。然レドモ十月十六七日以後ハ絶對ニ不良トス。而テ本灣ノ特徴ハ加布里灣ト共ニ「フジツボ」ノ殆ド附着セザルコトニシテ之レ築ヲ比較的早ク建テ込ムニ有利ナル點ナリ。即チ本灣ノ築建ハ九月二十六七日ヨリ十月五六日迄ニ

築建込月日	海苔附着状況	築立適否
十月一日	長サ四寸—五寸附着數頗ル多シ	適
全 二日	長サ三寸—五寸附着數頗ル多シ	當
全 五日	長サ三寸—五寸附着數頗ル多シ	當
全 七日	長サ三寸—五寸附着數頗ル多シ	當
全 九日	長サ三寸—五寸附着數頗ル多シ	當
全 十一日	長サ三寸—五寸附着數頗ル多シ	當
全 十三日	長サ三寸—五寸附着數頗ル多シ	當
全 十五日	長サ三寸—五寸附着數頗ル多シ	當
全 十七日	長サ一—三寸附着數少シ	當
全 十九日	長サ一—三寸附着數少シ	當
全 二十五日	長サ一—三寸附着數少シ	當
十一月月上旬	長サ一—三寸附着數少シ	當
十二月月上旬	長サ一—三寸附着數少シ	當



建込ムヲ最良ト見做シ得可シ

(三) 移植試験

加布里灣ト同様ノ方法ニヨリ有明海ヨリ移植試験ヲ行ヒタルガ、其成績亦同一ニシテ要スルニ當灣ニハ移植ノ必要ナク、寧ロ當灣ハ種場トシ之ヲ他ノ成育適當ノ灣ニ移ス方却ツテ得策ナリトス

(四) 海水比重ト海苔トノ關係

本年今津灣ノ海水比重ハ加布里灣以上ニ高キヲ示セリ、即チ一月十二日大潮満潮時ニ於ケル底面比重ヲ見ルニ、二五、〇〇線ハ灣ノ中央部ヲ突入シテ、瑞梅寺川海苔場ノ上方同川川口ニ迄侵入シ、二三、〇〇線ハ全ク沿岸ニ押シ寄せタリ。次ニ二月廿四日大潮満潮時ニ於ケル底面比重ヲ見ルニ、之亦一般ニ高ク二五、〇〇線ハ灣ノ中央部ヲ占領シ其頭部ハ今津岡ノ地先迄侵入セリ。而シテ海苔場ハ殆ド二四、〇〇以上ニ四、七五ニシテ一般ニ高ク、二三、〇〇線ハ全ク沿岸ニ迫レリ。本年今津灣海苔ノ生育不良ナリシハ、此ノ高比重ニ原因スル所大ナリシヲ推察セシム。而テ今宿潟及元岡村地先ナル瑞梅寺川尻ハ共ニ滿潮比重同一(二月二十四日ニ於ケル今山饗場ノ如キハ却ツテ低比重)ナルニ拘ラズ海苔成績ハ元岡地先落中ノ方良好ニシテ今宿ノ潟ハ劣レリ。此ノ原因ハ加布里ト同様、滿潮以前及以後ニ於テ低比重水ヲ被ムル時間ガ前者ニ多ク、後者ニ少キ關係ニ原因スト認ムルヲ得、即チ二月二十五日ノ潮間觀測ニ依ル時ハ左ノ如シ

場所	比重	最高二五、二〇以上	二四、〇〇以上	二三、〇〇以上	二二、〇〇以上	二〇、〇〇以上	最低約一五、〇〇以下
元岡落(地上)	三〇%		三六%	五%	四%	五%	
今宿潟(地中)	五二%		二七%	九%	六%	六%	ナシ

(五) 海苔ト地盤ノ高サトノ關係

今津灣ノ潮汐干満ノ差ハ大潮時約七尺三寸ナリ、而テ海苔ノ垂直的附着帶ハ大千潮線上二尺乃至四尺ノ間ニ在リ。故ニ築建場所ハ比重好適ノ地ニ於テモ、地盤ノ高サ三尺五寸以下ノ地ニ限ルノ要アリ

(六) 今津灣海苔養殖振興策

本場ニテ行ヘル前記試驗結果ニヨレバ養殖適地ハ相當廣大ナリ、而テ此適地ヲ利用センニハ現在ノ如キ築ノ粗放(粗放)建方ヲ改メ、棚立法ニヨリ充分ノ潮通シテ設クルコトトシ、集約的養殖ヲナサバ其生産額ハ相當増大スベシ。而シテ更ニ進ンデ築竹ノ改良、製造技術ノ練磨販賣法ノ改善ヲ肝要トス

(3) 洞海灣のり養殖試驗

洞海灣ニ於テハ昨大正十二年始メテのり養殖ヲ行フモノアリ、其ノ結果ハ築建場所ノ高キニ失シタル等ノ關係上事業トシテハ思ハシカラザリシモ、のりハ相當附着スルノ事實ヲ知レリ、依テ本年ハ本場ニ於

テ其ノ經濟的價值ヲ判定スベク之ガ養殖試驗ヲ行ヒタリ。

試驗ノ方法ハ八幡市地先ヨリ黒崎町地先ニ亘ル干潟ヲ基板目狀ニ區劃シ、總計二十八ヶ所ニ一ヶ所五十本宛ノ女竹篾ヲ、十月上旬建テ込ミテ附着區域及附着量ヲ調査シ、一方建込ミ時期ノ調査ヲ行ヘリ。右ノ結果附着區域ハ相當廣大ナルモノアリ、胞子ノ附着量ハ頗ル豊富ニシテ、附着層ハ一尺五寸乃至二尺ヲ有シ、一月中旬ヨリ三月下旬迄摘採ヲ得二月ヲ盛期トスル事ヲ知レリ。又築建適期試驗トシテ十月一日ヨリ同月三十一日迄、隔日ニ一定點ニ建込ヲナシタル結果ニ依レバ、上旬最モ良好ニシテ十二日頃ヨリ二十二日頃迄モ相當附着アリ、二十四日以後二十八日迄ハ點着著シク疎トナリ、二十九日以後ハ點々着生ヲ認ムルニ過ギザリキ。斯クノ如ク本灣ニ於ケルのりハ其附着區域廣ク、又附着量及成長モ大ニ良好ナレドモ、只のり品質堅硬ナルノ欠點アリテ、果シテ事業トシテ經濟的ニ成立シ得ルモノナリヤ否ヤニ就テハ、更ニ講究ヲ要スル點アリ。次年度ニ於テ試驗ヲ繼續施行シテ決定ヲ要ス

(4) 豊前蓑島地先海苔發生狀況調査

蓑島地先ニ於ケルのり場ニ就テハ前年度報告ニ記セル如ク、文久新開水門ヨリ起レル落ノ中約二百間ノ區域ハ成長及品質良好ナルヲ確メタルモ、果シテ經濟的ニ見込アルヤ否ヤニ就テハ疑問トスル所ナリキ而テ此地ノ試驗ハ本年度ハ豊前水産會ト聯絡施行スル事トシ、同會ニ於テ十月上旬女竹約六千本ヲ建込

ミタリ。然ルニ其結果ハ不良ニシテ青のり及他ノ海藻類ノ附着多ク、海苔ハ地上一、二寸ノ邊ニ僅カニ點在セルニ過ギズ。即チ附着層殆ド無ク且色澤モ不良ナリキ。是地勢ノ變化ニ依リ落ノ埋モリテ地盤ノ高クナリタルト、本年降雨少クシテ海水比重大ナリシ結果ニシテ、要スルニ本地先ハ望ミナキモノ、如シ

(5) 豊前曾根地先海苔發生狀況調査

企救郡曾根村吉田地先竹馬川尻落中ニ於テハ從來約三萬坪ノ地域ニ於テ十四名ノ事業者ガ毎年約五萬本ノ女竹ヲ建込ミ産額製品三、四十萬枚價額約四、五千圓ヲ舉ゲツ、アリ。該養殖場ニ就テハ前年度報告書ニ記述セル如クナルガ、大正十年以來作年迄行ヘル本場ノ試験ニ依レバ現今行ヘル區域以外ニ擴張ノ余地ハ之無キモノ、如シ。本年一月更ニ現場ノ調査ヲ行ヘルガ同様ノ結論ニ達セリ。依テ今後ハ現在ノ簇立込方ヲ改良シテ欄建テトシ集約的利用ヲナスト共ニ製法ノ改良ヲ行ヒ以テ其收益ノ増加ヲ圖ルヲ緊要トス。

(6) 粕屋郡多々良川尻海苔發生狀況調査

明治三十年頃ヨリ數年ニ亘リ多々良川地先ニ於テハのり養殖ヲ經營セラレタルモ、其後久シク中絶ノ状態ニアリ。然ルニ十四年二月現場ヲ調査シ、河川中ノ棒抗等ニ附着セルのりヲ見ルニ、品質優良、成長頗ル良好ナルヲ認メ海苔場トシテ或ハ興隆ノ見込アルベキヲ想ハシメタリ。依テ次年度ニ於テ之ガ且ツ

体的試験ヲ行フ計畫ナリ。

(7) 加布里灣かき採苗試験

五月二十九日及三十日ニ於テ泉州尻落ニ沿ヒ瓦ラ一ヶ所十枚宛五ヶ所ヲ撰定シ設置シ八月末日迄數回調査セシモ全ク種苗ノ着生ヲ見ザリキ

(8) 今津灣かき採苗試験

六月五日及六日ニ於テ太郎丸川尻落ニ沿ヒ樫篋一ヶ所二十本建テトシ五ヶ所ヲ撰定建込ミ牡蠣種苗ノ附着ヲ注視セシモ遂ニ其ノ着生ヲ見ザリキ

(9) 洞海灣かき採苗試験

四月中旬洞海灣平瀬附近ニ樫篋ノ建設ヲナシ、かき種苗ノ附着狀況ヲ調査シタルガ極メテ少量ノ附着ヲ見タルニ止マレリ

有明海干潟利用試験

(1) かき養殖試験

技師 藤森三郎
技手 海部清利
技手 今道晋

(甲) 採苗試験

有明海養蠶業ノ振興ハ、稚蠶時代ニ於ケル斃死ノ防止、干潟上ノ採苗及ビ人工池中採苗ヲ以テ三大方策ト爲サレ可カラズ。然ルニ稚蠶ノ斃死ハ大正八年以來連年起ル現象ニシテ其原因未ダ明確ナラザレ共兎ニ角其斃死状況ヨリ推察シテ之ガ人爲的救済ノ途ハ至難ト認メラル。次ニ干潟ニ於ケル採苗ノ經濟的成功ハ其影響スル所大ナルモノアルガ上、可能ヲ認メラル、ヲ以テ從來モ試験ヲ施行シ來リシガ本年更ニ之ヲ施行セリ。又人工池中採苗ニ對シテハ經費ノ關係上施行スルヲ得ザルガ故止ムナク從來極メテ小規模ノ豫備的實驗ヲ施行シ來リシガ本年再ビ之ガ實驗ヲ行ヒタリ、

(一) 稚貝ノ發生及斃死

本年ノ稚貝發生ハ例年ニ比シ約一潮遅レ六月十日前後ニ於テ始メテ少數ノ附着ヲ見タリ。而シテ其後大發生ヲ見ズシテ一般ニ附着甚ダ不良ヲ示シ只大川瀝及沖端川瀝ニ於テ川口ニ接セル部ニ多少ノ附着多カリシノミニテ沖合ハ不良ナリキ。

之ヲ要スルニ附着時期ハ本年ハ例年ヨリ約半月オクレ且ツ其種苗ノ附着ハ大正九年ニ次グノ不況ヲ見タリ然レ共發生セル稚貝ノ斃死ハ僅少ナリキ、今三瀝瀉ニ於ケル海水比重ヲ比較スルニ左ノ如シ。

三瀝瀉第十點滿潮時底面比重

(小サキ算用數字ハ觀測日ヲ示ス)

月	八			七			六			日	年	
	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬	下旬	中旬	上旬			
25	1811	5	2721	12	2820	14	5	日	大正八年	全九年		
	二二、八五	一九、一六	一九、五五	二〇、〇六	一九、〇五	一九、六二	欠					
20	15	7	3025	15	8	1	23	15	9	日		
	一八、〇〇	二二、七五	二二、〇一	一九、六八	一九、七四	一七、九四	一六、九六	二二、〇六	二二、四五			
26	2011	4	282	12	5	28	1613	9	日	全十年		
	二〇、五七	一九、五四	二〇、七四	一七、一三	一八、四〇	一六、四三	二〇、〇三	二二、六五	二二、二〇			
24	15	7	3124	1711	3	25	1811	3	日	全十一年		
	二二、五三	一九、三五	六、八九	六、〇四	一五、一四	二二、八〇	二〇、八三	二二、六五	二二、二〇			
28	2013	5	3022	14	6	2823	14	8	日	全十二年		
	二二、八三	二〇、三〇	一七、二五	七、二八	四、三〇	一四、一五	一〇、〇三	二一、一〇	一九、〇〇			
24	15	8	1	24	16	9	2	24	16	9	日	全十三年
	一七、四七	二二、八三	九、五四	一七、三三	二二、九〇	七、四四	九、九七	二二、五九	二二、九三			

即チ本年ハ一般ニ高比重ヲ示シ其狀況大正九年ト相似タリ、而テ例年ノ比重最低ヲ示ス七月上中旬ニ於テモ僅カニ低下シタルノミニテ殆ド年平均位ニ近シ。而テ一方稚蠶ノ着生ハ沿岸程良好ニシテ沖合ニ不良ナリキ。之等ニ依リ考フル時ハ本年稚蠶ノ附着頗ル不良ナリシハ高比重ニ原因スルモノニハ非ルカ。

(二) 採苗試苗

イ、瀝筋ノ採苗

沖端川瀝ニ於テ種貝採收ノ目的ヲ以テ各種ノ簀ヲ建テ込ミタルガ十二年夏期建込ノ古女竹五千本ヨリ十

樽、古樫篋四百本ヨリ三樽ヲ得タリ。而テ本年建込ミノ海苔篋トシテ使用後ノ古女竹約三千本ニハ相當多量ノ着生ヲ認メタルガ未ダ小形ナルヲ以テ夏期ニ至リ採收ノ計畫ナリ

ロ、干潟上ニ於ケル採苗

干潟ニ於ケルしわがき(まがき)ノ採苗價值及其適地ヲ判定センガタメ、三潞郡地先一ヶ所、山門郡西宮永村地先一ヶ所、兩開村地先二ヶ所、大和村地先一ヶ所、三池郡銀水村地先一ヶ所、(何レモ地盤ノ高サ約四尺―六尺)ヲ撰ビ、附着材料トシテハ、孟宗竹ノ枝ヲ棚ニ組ミ、地上五寸ノ高サニ架設シタルモノ海苔篋トシテ使用セル古女竹、石灰塗抹ノ瓦ヲ用ヒ五月上旬、中旬、六月月上旬、中旬及下旬ノ五回ニ亘リ建設シタリ。

然ルニ其結果ハ場所、時期、材料ヲ問ハズ全部何レモ附着不良ニシテ、且女竹及瓦ハ暴風ノ爲メ大部分散逸セシメラレ、豫期ノ結果ヲ見ル事能ハザリキ。

尙例年ノ如ク山門郡兩開村地先明治治線觀測點及三潞線觀測點潟上一ヶ所ニ、竹幹篋三十本及瓦二枚宛ヲ二十ヶ所建設セルモ點々附着ヲ見タルニ止マレリ。

ハ、孵化實驗

人工池中採苗試驗ノ豫備試驗トシテ、前年ニ引キ續キかきノ孵化實驗ヲ行ヒタルモ、豫期ノ結果ヲ收ムル能ハザリキ。然レモ尙後ノ參考ノ爲メ次ニ經過ノ大要ヲ記スベシ

(1) 土甕ヲ海底ニ据エ置ク方法……………口径一尺高サ一尺五寸二斗入りノ土甕五個ヲ、三潞潟地盤ノ高サ五尺ノ點ニ半バヲ埋メ、上部ヲ天笠木綿一枚ニ被ヒ、瓦附着器ヲ入レ、而テ甕ノ中ニ、一ハ人工受精ニ依ル卵ヲ放養シ、一ハ母貝ヲ放養シ以上何レモ二個宛トシ他ニ比較ノタメ何等放養セザルモノ一個ヲ置キ、六月二十九日施行シタルガ先ヅ母貝ヲ入レシモノハ五日後ニ腐敗シ、卵ヲ入レシモノハ七日後ニ腐敗シ終ニ不結果ニ終レリ。而テ何等放養セザルモノハ水腐敗スルニ至ラザリシモ亦稚蠟ノ着生ヲ見ザリキ。

(2) 貯水槽中ニ袋ヲ裝置シタルモノ……………前記場所ニ徑三尺高二尺ノこんくりト丸桶ヲ設置シ、之ニ海水ヲ堪エ、此中ニ天笠木綿製袋ヲ水中中央ニ吊シ(袋ハ内部ニ竹籠ヲ嵌メ込ミ提灯ノ如ク張リ内ニ附着器ヲ置ク)此袋ノ中ニ人工受精卵少量ヲ放養シテ袋ノ周圍全体ヨリ海水ノ交換ヲ圖ル計畫トシ、他ニ比較ノ爲メ卵ヲ入レザルモノト共ニ、七月十二干潮時ニ裝置セルガ卵ヲ入レシモノハ五日後ニ至リ腐敗シ不結果ニ終レリ。

(3) 水槽中ニ活洲ヲ裝置セルモノ……………前記ト全趣向ニシテ只、袋ノ代リニ活洲ヲ使用シタルモノニテ、活洲ハ木製トシ、卵遮斷ノ爲メニ晒木線及ゴ―すわいヤーヲ使用シ、七月十九日裝置シタリ。約十日間ハ水ノ腐敗ヲ認メザリシガ又一方卵モ存在ヲ認メザルニ至レリ。之晒木綿ニテハ目荒キニ過ギ逃出シタルモノナラン。其後該器ハ波浪ノ爲メ破壊サレ遂ニ不結果ニ終レリ。

(4) 之ヲ要スルニ、小規模ニテハ泥其他ノ有機物ノ沈澱及死卵ノ腐敗ノタメ海水腐敗ス。又腐敗セザル程度ニ水ノ流通ヲ佳良ナラシムベク布目ヲ荒クスレバ卵逃出シ不結果ナリ。故ニ今後ハ水ノ腐敗セザル程度ノ大規模ノ實驗ヲ施ス外途ナキガ如シ。

(乙) かき養成試験

大正十二年四月上旬種貝四十八樽、及六十八樽蒔付ノ分ハ九月十一日ノ大暴風ノタメ全部散逸シ爲メニ何等ノ結果ヲ收ムルコト能ハザリキ。次ニ大正十四年三月二十五日ニ種貝十四樽及五十七樽ノ蒔付ヲ行ヒ目下養育中ナリ

(丙) 各地産かき移植試験

熊本縣鏡町、廣島縣草津、愛知縣下ノ一色、神奈川縣金澤ノ四ヶ所ヨリかき種貝ヲ有明海ニ移植シ其ノ成長度及經濟關係ヲ究ムル目的ヲ以テ三月下旬夫々移植ヲナシ山門郡兩開村地先ニ蒔付ヲ行ヘルガ結果ハ次年度ニ報告スベシ

(2) あさり貝養殖試験

(一) 大正十三年蒔付貝收納成績

大正十三年四月二十二日熊本縣宇土郡長濱ヨリあさり種貝ヲ購入シ山門郡兩開村明治線第九點ニ蒔付ケ

滿十一ヶ月ヲ經過セル大正十四年三月二十二日ニ收納セルガ左表ノ如キ優良ナル成績ヲ示セリ

蒔付				收納			
(大正十三年四月三日)				(大正十四年三月二十二日)			
平均殻長	平均体重	一升個數	蒔付總量	平均殻長	平均体重	一升個數	收納總量
〇、八二寸	〇、五八	六〇〇ヶ	十四石	一、三〇寸	二、九	一七〇ヶ	二十六石
			坪當蒔付量				坪當收納量
			四升				七、四升合
							増量率
							一、八五倍
							數ノ歩留
							五、二六割分厘

(二) 蒔付試験

大正十三年十一月二十六日日本縣大牟田地先發生蛸貝平均殻長五分八厘一升入粒數一千八百ヶノモノヲ採取シ明治線第六點ニ蒔付シタリ其ノ後十四年一月及三月ノ二回ニ亘リ多少風波ノタメ散乱セルガ其ノ後ノ經過ハ良好ナリ

(3) はまぐり貝養殖試験

大正十一年五月一日蒔付ノはまぐり貝ハ十三年十二月二十五日全部收納セルガ其ノ成績左ノ如シ

蒔付				收納			
(大正十一年五月一日)				(大正十三年十二月二十五日)			
平均殻長	平均体重	一升個數	蒔付總量	平均殻長	平均体重	一升個數	收納總量
〇、九六寸	二、〇	三三〇ヶ	三石	二、一五寸	一、八〇	二九ヶ	三三石
			坪當蒔付量				坪當收納量
			一斗				一斗
							増量率
							一、〇一倍
							數ノ歩留
							八、八六分厘

(4) はまぐり蕃殖試験

有明海本縣地先ニハ現時はまぐりノ發生ヲ見ザレ共本場ニ於テ數年前ヨリ數次種貝ヲ熊本縣ヨリ得テ移殖試験ヲ行ヒタルニ其成績ハ頗ル佳良ニシテ筑後川尻ニ於テハ民業トシテ之ガ蕃殖ヲ行フモノアルニ至リシモ、鹽分ノ關係上、産卵ヲ見ルニ係ラズ同所附近ニテハ其發生ヲ見ル事ナシ。然ルニ大牟田市及三池郡銀水村沖合ニ於ケル海苔發生場附近ハ、海水比重普通二一、〇〇—二四、〇〇平均二三、〇〇内外ヲ示シ、はまぐりノ發生ニ適當シ底質モ亦適當ナル個所多シ。依テ此地ニはまぐりノ蕃殖ヲ企圖シ、大正十一年五月一日熊本縣綠川尻産はまぐり二石ヲ大牟田市松原地先ニ放養セリ。然ルニ其後盜難或ハ風浪ニ依ル被害ノ爲メ蒔付貝ハ漸次減少シタルガ、一方大正十四年三月ニ至リ、前記放養地ヨリ沿岸へ約二百間ノ地點諏訪川尻ニ於テ、はまぐり稚貝ヲ採取スル者續出セルヲ以テ調査セルニ殼長五分位ノモノ相當發生セルヲ認メ全ク豫期ノ結果ヲ擧ゲタルヲ確メタリ。依テ更ニ次年度ニ於テ再ビ之ガ増殖試験ヲ行ハントス。

(5) あげまき貝養殖試験

(一) 大正十二年蒔付貝收納成績

大正十二年九月上旬種貝ノ蒔付ヲ行ヒ同十三年八月下旬ヨリ九月上旬ニ亘リテ收納セルガ各地點ノ成績左ノ如シ

蒔付場所	蒔付時 (大正十二年九月十日)				收納時 (大正十三年八月二十九日—九月三日)			
	殼長平均	体重平均	個數	總量	殼長平均	体重平均	個數	總量
山門郡兩開村地先(四十二坪) 地盤高七尺〇	一、三八〇	八、八五	三五〇	一、二六	二、三三	五、〇	七二	一、八
三浦灣第十一點(二十五坪) 地盤高五尺五	全	全	全	七斗五升	二、五八	六、〇	五四	一、三二
明治線第六點(二十五坪) 地盤高六尺〇	全	全	全	七斗五升	二、四二	四、九	七四	一、三二
地盤高六尺〇	全	全	全	七斗五升	二、四二	四、九	七四	一、三二

(二) 蒔付當年收納成績

大正十三年五月二十九日種貝ノ蒔付ヲ行ヒ同年九月十日秋季被害前收納セル成績左ノ如シ

蒔付場所	蒔付時 (大正十三年五月二十九日)				收納時 (大正十三年九月十日)			
	殼長平均	体重平均	個數	總量	殼長平均	体重平均	個數	總量
明治中央	一、五一	一、八一	三〇〇	五斗二升	一、九五	三、二	一一三	八斗二升
百三	一、五一	一、八一	三〇〇	五斗二升	一、九五	三、二	一一三	八斗二升
十坪	一、五一	一、八一	三〇〇	五斗二升	一、九五	三、二	一一三	八斗二升

(三) 養成試験

あげまき種貝平均殻長一寸四分四厘一升入粒數二百九十ヶ入りノモノヲ次年度收納ノ目的ニテ大正十三年八月三十日三瀧潟第十一點ニ五石三斗ヲ又九月七日山門郡雨開村地先地盤高サ凡七尺ノ地點ニ五斗六尺ノ地點ニ六斗三升ヲ蒔付シタリ

(6) 貝類發生狀況調査

十一月ヨリ十二月ニカケ本年ニ於ケル諸貝類ノ發生狀況ヲ調査セルガ、牡蠣ヲ除ク外ハ發生甚タ豊富ナルヲ認メタリ、其ノ概況次ノ如シ

あげまき 沿岸一帯ニ亘リ發生極メテ饒多ニシテ、三瀧潟地先ノ如キ、多キハ十一月中旬調査ノ際一尺平方ニ對シ一千百個ヲ算シタル所アリタル程ニテ、本年ノ如キ豊富ナル發生ハ近年稀トスル所ナリ
あさり貝 一帯ニ發生多ケレ共、特ニ大牟田地先約十萬坪、銀水村地先十萬坪、中島川尻約五萬坪、鹽塚川尻約五萬坪ニハ頗ル饒多ニシテ、多キハ一尺平方二百ヶ乃至五百個ニ及ベリ。あさり貝ガ斯卡ル大發生ヲ見タルハ大正八年以來ノ現象ナリ
みろく貝 一帯ニ發生アリ、特ニ銀水村地先約一萬坪、大川尻西ノ洲約五萬坪ノ地區ニ密集發生セリ
うば 貝(シヲフキ) 中島川尻黒崎地先ニ約八萬坪すぎん洲ニ約四萬坪ノ發生場アリ、一尺平方平均六十個ヲ有セリ、大牟田地先ニハ約二萬五千坪、三川町諏訪地先及早米木地先ニ約三萬坪ノ發生場アリ

何レモ一尺平方二十個内外ノ發生ヲ見タリ

たひらぎ介 大牟田地先ニ發生多ク、横須地先約十萬坪松原地先約一萬坪ニテ一坪二、三十ヶノ發生アリ

(7) 貝類ノ成長ト環境條件トノ關係調査

貝類ノ成長ハ環境條件ノ適否ニヨリ左右セラル、事大ナリ、而テ之等ノ條件ハ頗ル複雑ニシテ、底質或ハ水質等單一ノ原因ニヨリ影響セラルル外各種ノ條件ガ互ニ綜合シテ影響スルコトアリ、之レ等ノ關係ヲ明瞭ナラシメントメ各貝類ニツキ土質及海水比重ノ關係ヲ調査セリ、完結ノ上報告ヲ期ス

(8) 海苔養殖試験

(一) 築建適期調査

本調査ハ數年來繼續施行セルモノニシテ、築建適期ハ既ニ略々明瞭ナラシメ得タレ共更ニ一層適確ナラシメンガ爲メ施行セリ。場所ハ大牟田川尻赤濤杭ヨリ川ニ浴ヒ北東約百五十間、地盤ノ高サ四尺ノ處ニシテ、女竹五本ヲ一株トシタルモノ五株宛ヲ九月二十五日ヨリ十一月八日マデ二十回、隔日ニ建込ミ海苔附着狀況ヲ調査セリ、十二月下旬ニ於ケル成績次表ノ如シ。

築建込月日	のり附着力	のり成長状況	ふじつば(方言じめき)附着力状況	築建適否
九月二十五日 全 二十七 全 二十九 十月 三	最モ多シ	最良好	稍多シ	最モ適當
十月五日 七日、九日 十一月十三日	稍多シ	良好	中位	適當
十月十五日 全 十七日	流失シ	調査	不能	
十月十九日 十月 二十一日 十月 二十三日 十月 二十五日 十月 二十七日 十月 二十九日 十一月 一日 十一月 三日	少シ	不良	少シ	下等
十一月八日	附着ナシ			不適當

前表ニ依レバ九月二十五日ヨリ十月三日迄ノ築建込ハ、ふじつば(方言じめき)着生セルモ、のり附着及發育状態共ニ良好ナリ、十月五日ヨリ十三日築建込ノ孢子ノ附着前者ニ比シ稍劣リ、十五日及十七日ノ築建込ノ分ハ流失シ調査不能ナリシモ、十九日以後築建込ノ孢子著シク劣リ生育モ又不良ヲ示シ、十一月八日築建込ノ分ハ附着ヲ認メザリキ。而テ孢子ノ附着上顯著ナル差異ハ、十一年ニハ十月十二日ト十四日トノ間、十二年ハ十四日ト十六日トノ間ニ現ハレタルガ、本年ハ十五日及十七日築建込ノ流失セル爲メ確ナル事ハ不明ナレ共、前後ノ事情ヨリ推定シテ十五日頃ニ現ハレタルモノト認ムルヲ得、之ヲ以テ見ル時ハ當地先ニ於ケル築建時期ニヨル海苔孢子ノ附着良否ハ、十月十五日前後ニアリ、要スルニ築建ハ九月下旬ヨリ十月上旬迄ヲ最適期トシ十月十五日以後ハ不良ナリトス。

(二) 築材優劣試験

築材ノ優劣ハ海苔事業上ニ及ス關係大ナルヲ以テ前年度ニ引キ續キ更ニ之ガ試験ヲ行ヘリ
試験ノ方法 大牟田川尻赤落杭ヨリ南西約五十間地盤二尺ノ場所ヲ選定シ築材トシテハ左ノ四種ノモノヲ選ビタリ

- 1. 女 竹(五月切り) 長サ八尺五寸枝付四尺 五百四十本 三 柵
- 2. 女 竹(八月切り) 全 五百四十本 三 柵
- 3. やじの竹 全 五百四十本 三 柵

4. 孟宗幹竹

全

百八十株 三 柵

六八

女竹ノ春切り及秋切り並ニやじの竹ハ三本ヲ一株トシ、孟宗幹竹ハ一本一株トシタルモノヲ、何レモ一柵ニ對シ六十株ノ割ニテ各三柵ノ建込ヲナセリ、柵ノ長サハ三十間柵ト柵トノ間隔ハ一間、株ト株トノ間隔ハ三尺トシ、約四十五度ノ角度ヲ以テ十月一日ニ建込ヲナセリ、而テ海苔ノ摘採ヲ得ルニ至リタルハ、早キハ一月上旬遅キハ三月上旬ニ及ビタリ、各柵ノ採取成績ハ次表ノ如シ

事項	採	取	高	採		取		高						
				上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬					
孟宗幹	一八〇	三、三	一七三	四九〇	一四四	三八四	四一八	三三六	一、九四五	三、四、九	八、一	一六、二	九、五	
やじの	五四〇	七、九	一三二	七三〇	三〇二	四八六	四六六	四〇六	一、〇九〇	三、三、六	五、八、〇	六、〇	一八、〇	一、〇、〇
女竹	五四〇	七、九	二〇二	六九一	三八四	五〇三	六〇〇	四八〇	二、八、〇	五、四、八	五、三	一五、九	九、五〇	
春切竹	五四〇	一〇、〇	一三九	六九一	四八〇	三六五	一、〇〇八	七、四	三、四、七	六、五、五	六、三	一八、九	一、二、三	

右ノ表ニ依レバ女竹春切り、秋切り及やじの竹ハ一月上旬ヨリ採取スルヲ得、就中春切りハ最モ有利ト認めラル、孟宗幹竹ハ一潮遅レテ採取セリ

(三) 築建粗密試験

單位面積内ニ於ケル海苔ノ增收ヲ期センニハ、築材料ノ研究ト共ニ柵内ニ於ケル築ノ適當ナル密度ヲ決定セザルベカラズ、此ノ爲メ前年度ニ繼續シ本試験ヲ施行セリ、試験ノ方法ハ大牟田川尻赤落杭ノ南西約五十間、地盤ノ高サ二尺ノ場所ヲ撰ビ、築ハ長サ八尺、枝付四尺ノ女竹ヲ以テ一株二本、三本、四本、五本、六本ノ五種ノ築ヲ作り、一柵ニ對シ六十株ノ割ニテ各二柵ノ建込ヲナセリ。一柵ノ長サハ三十間、柵ノ間隔ハ一間、株ト株トノ間隔ハ三尺ニテ、各株ハ約四十五度ノ角度ヲ以テ建込ミヲナセリ。建込ハ十月二日ニ一齋ニ行ヒタルガ、附着セル海苔ノ摘採ヲ得ルニ至リタルハ、一月上旬ニシテ其後三月上旬マデ六回、各回トモ同時ニ採取シ其ノ量ヲ比較シタリ成績次表ノ如シ

事項	採	取	高	採		取		高					
				上旬	下旬	上旬	下旬	上旬	下旬				
六本株	七二〇	一〇、五	一〇六	三六〇	五二二	五九〇	八五九	五五二	二、九、〇	五、五、三	四、一	二四、六	一、四、〇
五本株	六〇〇	八、三	八六	二八八	四四六	三七〇	四八五	二四〇	一、九、五	三、四、七	三、二	一六、〇	九、六〇
四本株	四八〇	七、三	一一五	四七〇	二二五	四四二	四二七	三三六	二、〇、六	三、三、九	四、二	一六、八	一、〇、八
三本株	三六〇	五、元	九六	五九五	一三〇	三九八	四三二	三七四	一、〇、五	二、七、五	五、六	一六、八	一、〇、〇
二本株	二四〇	三、三	一七三	四九〇	一四四	三八四	四一八	三三六	〇、九、五	二、四、九	八、一	一六、二	九、五

六九

右表ニ依レバ一株ノ粗密ニヨリ採取量ヲ異ニシ、六本ヨリ二本ニ至リ漸次粗トナルニ從ヒ一本當リノ採取量ハ増大セルヲ見ル。然レ共海苔品質ニ於テハ同一ニシテ差異ヲ認メザリキ。而テ一株三本ヲ以テ最モ有利ト認メラル、尙ホ本試験ノ結果ハ前年ノ結果ト其ノ傾向全ク同一ナリトス

(四) 附着 區域 調査

中島川尻オビ洲、大牟田地先沖合部及三川町地先沖合部ニテ干潟ノ土質砂ニシテ緊縮シ、且ツ風浪激シキ所ハ海苔附着程度明瞭ナラズ、從テ當業者ノ養殖ヲ行フモノナシ。依テ此ノ地ノ海苔附着狀況ヲ調査センガタメ、右三ヶ所ニ十月十三日女竹簀一株三本束、十五間柵二柵、株數五十株ノ建込ヲナシタリ。其結果ハ各所共海苔胞子ノ附着頗ル少ク、且成長モ不良ニシテ漸ク三月上旬ニ三四寸ニ生長セルモノ點々存スルノ状態ニアリ、而テ簀竹ハ三月上旬ニハ三川町地先ノモノハ三分ノ二、大牟田地先ノモノハ三分ノ一、豫防シ得ベキモ、問題ハ胞子ノ附着及生育不良ノ原因ガ何レニ存スルカヲ研究スルニアリ。然ルニ干出關係ハ勿論良好ニシテ、海水比重ノ關係モ不良ト稱シ難キヲ以テ、其ノ原因ハ風波荒キ關係上胞子着生シ難ク、且ツ着生セル胞子モ風波ノタメ切斷サレ生長意ノ如クナラザルニ由ルモノト推定セラル。依テ明年度ニ於テハ此地ニ風波ヲ防グ装置ヲ施シテ試験ヲ行ヒ其ノ當否ヲ判定セントス

(9) 有明丸建造

有明海調査船有明丸ハ大正七年建造シ、十二年ニ從來ノモーターヲ八馬力赤阪式輕油發動機ト取り替ヘタリ。然ルニ船体ハ使用七ケ年ヲ經、船底腐蝕シ使用ニ堪エザルニ至リシヲ以テ、新造ニ決シ十三年九月六日ヨリ十月四日迄粕屋郡箱崎町ニ開催ノ本場主催船匠講習會ニ於テ、講師橋本德壽氏指導ノ下ニ建造シ十月二十三日進水、有明海ニ廻航セリ。本船ハ木船西洋型ニシテ長サ三十八尺、巾七尺二寸、深三尺二寸、四、六噸ヲ有シ、機械ハ從前ノ八馬力赤阪輕油發動機ヲ据エ付ケタルガ一時間全速力七哩余通常六哩ヲ有セリ。

板屋 貝 調査

技師 藤 森 三 郎
技手 安 西 清

縣下宗像郡勝島及大島間並ニ倉良瀬沖海底ニ大正十三年夏季板屋貝ノ群棲セルヲ發見シ沿岸各浦ヨリ漁船約二百隻出漁シ盛況ヲ呈シタリ然ルニ板屋貝ニ就テハ未ダ精細ナル研究無ク其習性等モ不明ニシテ從ツテ本漁業ニ對スル蕃殖保護或ハ漁獲方法ノ改善製造利用ノ改良其他ノ方針ヲ決定スルコト至難ナリ、依テ縣ハ豫備費ヲ支出シ本場ニ於テ之ガ調査ヲ行フコト、シタルヲ以テ先ツ第一着手トシテ七月ヨリ八月ニカケ之ガ研究ヲ開始シ、本漁業ニ對スル既往ノ沿革、本貝ノ棲息狀況、産卵期、稚貝ノ發生、成長

七二
 年齢、生活年限、食餌、運動、回遊移動、害敵其他ノ習性ヲ精細調査シ更ニ加工製造ニ關スル研究ヲ行
 ヒ、其後時々之ガ調査ヲナシ次デ三月ヨリ四月ニカケ潜水漁夫ヲ雇ヒ海底、ニ於ケル板屋貝ノ棲息狀況
 ヲ調査シタリ。而テ本調査ハ更ニ次年度ニ繼續施行シテ之ガ完成ヲ期セントス

船匠講習

軌近小型發動機船漁業著シク勃興シ一兩年來全縣ヲ通シテ八十餘隻ノ新造セルモノアリ本縣ニ於テハ水
 産業獎勵規定ニ依リ新造者ニ對シテハ検査施行ノ上補助金ヲ交付セラル、モ船匠ノ多クハ規定ノ構造法
 ヲ解セス往々違法ノ構成ヲナスモノアリ殊ニ機關ヲ有スル漁船構造不完全ナルハ頗ル危険ナルノミナラ
 ス船齡著シク短縮セラレ漁業者ノ蒙ル損害多大ナルヲ以テ曩ニ學理ノ講習ヲナシタルモ未タ徹底セサル
 モノアルヲ以テ本年度ニ於テハ大日本水産會ヨリ講師橋本德壽氏ヲ聘シ九月六日ヨリ全廿八日マテ三週
 間ノ豫定ヲ以テ講習會ヲ柏屋郡公會堂ニ開催シ一般學理及製圖法ニ就キ講習ヲナシ續イテ之レガ實地作
 業トシテハ本場所屬有明丸代船建造ヲ機トシ全船ヲ實習材料トナシ全郡箱崎ニ於テ全講師指導監督ノ下
 ニ建造セシメ左記廿名ノ講習生ニ修得證書ヲ授與セリ

記

- 築上郡東吉富村 安 森 薫
- 築上郡宇島町 小 田 吉 松

宗像郡岬村	占部 仲次郎	柏屋郡志賀島	長 甚 兵 衛
全 神湊町	石 松 義 三	全 全 弘	今 泉 明
全 福岡町	井 本 一 郎	全 全	上 杉 初 造
糟屋郡箱崎町	戸部 田 德 隆	全 全	今 泉 時 次 郎
全 新宮村	篠崎 作 五 郎	早良郡姪濱町	花 井 政 之
全 和白村奈多	藤 尾 友 吉	糸島郡野北村	田 中 平 一
全 全	藤 尾 源 助	全 加布里村	濱 地 來
全 全	藤 尾 豐 次	山門郡沖端村	芳 司 精
全 志賀島村	今 泉 芳 兵 衛	全	北 野 多 吉

水産製造指導

築窯指導—本縣沿海ニ於ケル主要漁獲物ニシテ加製セラル、モノハ主トシテ蓑乾品ナルヲ以テ之ガ製造
 能率ノ増進、品位ノ統一、勞力及生産費ノ節減ハ主トシテ築窯ノ如何ニアルヲ以テ本場ハ年來之ガ指導
 ヲ行ヒ改良ヲ計リシ結果柏屋宗像地方ニ於テハ漸次改良窯ニ改造スルモノ多キヲ加ヘシガ尙一層改良ノ
 切ナルヲ感シ糸島郡北崎村柏屋郡新宮村志賀島村宗像郡神港町等ノ各浦ニ亘リ築窯改良ノ指導ヲ行ヒ本

場ニ於テ設計シ之ヲ築設セシメタリ

調味加工品製造指導—近時食料品界ノ一傾向タル高級調味加工品ノ需用増盛セルニ鑑ミ之ガ製造ハ沿岸漁家ノ副業トシテ最適切ナルヲ認メ粕屋郡和白村志賀島村及山門郡沖端村大和村大牟田市等ニ之レガ製法ノ指導ヲ行ヒタル結果本縣產調味加工品ハ品位ニ於テ他ニ勝ルモノ漸次増加シツ、アリ
板屋貝加製法指導—本年度宗像郡沿海ニ多産セル板屋貝ハ數十年前漁獲アリタルノミニシテ本年ノ多獲ニ際シ其製法ハ僅ニ記憶ヲタドリテ加製スルノ状態ニアリ加鹽量方法等區々ニシテ製品々位ノ不同ヲ來スヲ以テ本場ハ宗像郡各浦ニ亘リ之ガ製法ノ指導ヲ行フト共ニ步留試驗ヲ行ヒ製法ノ改良ヲ行ヘリ
大羽鱈利用法指導—近年糸島郡ニ於ケル大羽鱈ノ漁獲ハ年々増加ヲ示シツ、アルマ以テ之ガ加製法トシテハ粕並ニ煮乾燻乾品ノ製造ヲ指導シ火山ノ築造ヲ奨励セリ
共同販賣所經營指導—山門郡沖端村漁業組合ニ於テ魚類ノ共同販賣所設立ノ計劃起リ三月廿五日沖端村ニ於テ漁業組合員及仲買人等招集シ共同販賣事業ノ經營法ニ付指導ヲ行ヒタリ

海苔簀製造講習

技師 藤 森 三 郎
技手 海 部 清 利
技手 今 道 晋

十一月三日ヨリ十一月二十三日ニ至ル一ヶ月間ニ亘リ大牟田市、三川町、江ノ浦村ニテ落合講師擔當ノ下ニ海苔簀製造講習ヲ開催シタリ、一回ノ講習期間ハ五日トシ、編ミ方ノ實習、段ノ撰別法、簀優劣ノ

見分方等ニ就キ傳習ヲナセリ、講習終了者總計四十七名ニシテ之ヲ市町村別ニ示セバ左ノ如シ

市町村別	期		講習修得者數
	自	至	
大牟田市 第一ノ組	十一月十日	十一月十五日	九名
全 第二ノ組	十一月十六日	十一月二十日	八名
全 第三ノ組	十一月二十一日	十一月二十三日	七名
三池郡三川町諏訪	十一月二十六日	十一月三十日	十一名
全 江ノ浦	十二月三日	十二月五日	十二名

乾海苔製造講習及指導

技師 藤 森 三 郎
技手 海 部 清 利
技手 今 道 晋

前年ト同様十二月ヨリ三月迄ノ海苔製造期間中各地當業者ノ作業場ヲ巡回シ、實地ニ就キ摘採、製造販賣等ニ關シ指導ヲ行ヒ、特ニ製品ノ品評會ヲ催シ品質ノ見分方貯藏ノ方法等ノ欠陥ニ對シ指導スルトコロアリタリ、而テ本指導ハ主トシテ落合講師之ヲ擔任セリ

有明海海苔養殖場設計及實測

技師 藤 森 三 郎
 技手 海 部 清 利
 技手 今 道 晋

大牟田市及三池町並ニ山門郡關係漁業組合ノ希望ニ基キ、海苔養殖場ノ設計ヲナシテ之ヲ交付シ、更ニ此設計ニ基キ八月上旬及中旬ノ大潮時ニ於テ、干潟上ニ實測ノ上養殖場ノ設定ヲ行ヘリ、該計畫ハ昨年度ト稍異リ一株ヲ女竹五本以内トシ、柵ノ長サヲ三十間、柵ト柵トノ間ヲ一間トシ、一柵ニ六十株ヲ建テ一小間ヲ縱三十間横六十五間トシ、十柵目毎ニ三間ノ潮通シヲ明ケ、小間ト小間トノ間隔ヲ普通八十間トシ、中島地先、黒崎地先ハ四十間トセリ

糸島郡乾海苔養殖製造講習及巡回指導

技師 藤 森 三 郎
 技手 海 部 清 利

糸島郡加布里灣及今津灣ニ於テハ、從來海苔養殖業ヲ營ミ居ルモ、製造上改善ヲ要スベキ點多ク又今津灣ニ於テハ本年始メテ事業ヲ爲ス者三十余名アリシヲ以テ、落合講師ヲ派遣シ左記ノ指導ヲ行ヘリ。
 (一) 乾海苔製造講習會
 講習事項ハ主トシテ東京式抄キ方ノ實習ニシテ併セテ原藻ノ洗ヒ方、原藻ノ一時貯藏法、刻ミ方、溶キ方、抄キ方、簀ノ扱ヒ方、乾シ方特ニ裏乾シ法、剝ギ方、折リ方、製品貯藏法等ニ就キ實習ヲ行ヒ、尙ホ販賣上ノ注意等ヲ講述セリ

加布里村 十二月九日ヨリ全月十四日迄、 修得者 二十名
 今津村 十二月十五日ヨリ全月十九日迄、 全 三十七名

(二) 巡回實地指導

前項ノ如ク講習ヲ行ヒタルガ右ニテハ遺憾ノ點アルヲ以テ、其後海苔事業期中ニ於テ、落合講師ヲ派シ一月中旬及二月下旬ノ二回加布里及今津兩村ノ海苔業者ニ付戸別ニ巡回實地指導ヲナセリ

講習講話

八月十七日	博物學講習會	八女郡廣川村	福井 技師
八月十八、十九日	水産製造講話	宗像郡津屋崎町	全
十二月十四、十五日	海苔抄製講習	糸島郡今津加布里	全
一月三十日	鯔飼付漁業	宗像郡津屋崎町	喜多山 技師
三月二十五日	共同販賣ニ關スル講話	山門郡沖端村	福井 技師

漁業取締

曩ニ漁業取締船トシテ玄海丸ハ警察部ニ移管シ全部附屬沖の島丸ト二隻ニテ極力玄界方面ニ於テ主トシテ機船底曳網漁業取締ニ従事セシガ、海上ノ漁業取締タルヤ陸上ノ諸取締事項ト其趣キヲ異ニシ海上諸

般ノ事項殊ニ漁業ノ状態審カニシ難ク隔靴搔痒ノ憾ナキ能ハサルヲ以テ本場ニ移管各種調査試験ヲナス
ト共ニ本場ニテ取締ル方妥當ナルノ理由ニ依リ本年度ヨリ更ニ本場ニ移管セラル、事トナリ取締出航ノ
際ハ警察部ヨリ警官乗組ミ違反者檢舉ノ事務ヲ担当スル事トシ警察部沖ノ島丸ト共ニ極力玄海方面ニ於
ケル横暴ナル機船底曳網密漁船ノ防遏ニ努メ四十二隻ノ全違反船ヲ檢舉セリ

月別	檢舉隻數及漁業種別	月別	檢舉隻數及漁業種別
四月	四隻、機船底曳網漁船	十月	一〇隻
五月	二隻	十一月	四隻
六月	四隻	十二月	六隻
七月	二隻	一月	二隻
八月	六隻	二月	二隻
九月	二隻	三月	二隻

尙豊前海方面ニ於テハ英彦丸ヲ以テ之レニ當リ主トシテ打瀬網漁業、鯨流網漁業ノ密漁侵入ノ防遏ニ勉
ムルト共ニ一方柵網漁業ノ布設位置ニツキ嚴重ニ監視ヲナセリ然シテ違反船ノ檢舉セルモノ左ノ如シ

月別	檢舉隻數及漁業種別	月別	檢舉隻數及漁業種別
四月	一〇隻 鯨流網漁船九隻 打瀬網漁船一隻	十月	七隻 打瀬網漁船六隻 鯨流網漁船一隻
五月	一〇隻 打瀬網漁船一隻	十一月	六隻 打瀬網漁船五隻 鯨流網漁船一隻
六月	一〇隻 打瀬網漁船	十二月	二隻 打瀬網漁船一隻 鯨流網漁船一隻
七月	三隻 鯨流網漁船一隻 打瀬網漁船二隻	一月	
八月		二月	
九月	二隻 打瀬網漁船	三月	

有明海潜水機密漁船取締

有明海ニ於テハ此一兩年たひらぎ貝ノ漁獲甚ダ多ク、殊ニ佐賀縣及本縣專用漁場境界附近ニ於テ發生濃
密地アリ。之等ヲ潜水器ニ依リ漁獲スルモノ續出セルガ、潜水機漁業ハ本縣ハ之ヲ禁止シ佐賀縣ハ七臺
ヲ限リ許可セリ。然ルニ密漁船激増シ、約七、八十隻ニ及ビ本縣小漁民ノ困難大ナリシヲ以テ、本場ハ
沿岸警察署ト聯合シ有明丸ヲ以テ一月以後之ガ取締ニ從事シ、柳河及大牟田兩警察署ニヨリ多數檢舉ヲ
ナセリ

14.2
854

大正十四年 日印刷
大正十四年 月 日發行

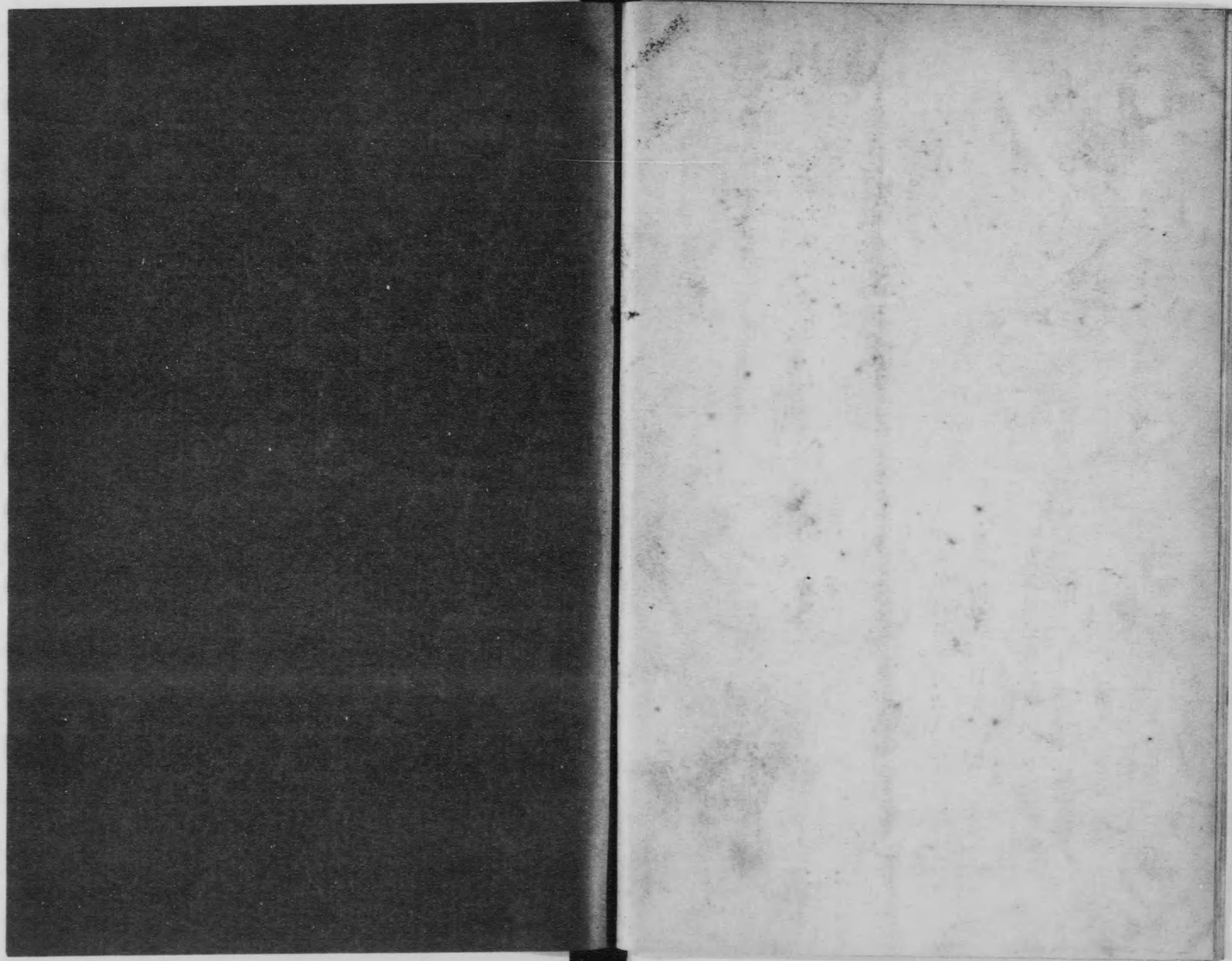
福岡縣水產試驗場

福岡市福岡吳服町六八
印刷者 田 口 勝 成

福岡市福岡吳服町六八
印刷所 田 口 印刷 所

Large-scale grid structure, possibly a calendar or data table, with multiple columns and rows. The text within the grid is extremely faint and illegible.

Faint vertical text on the right side of the page, possibly bleed-through from the reverse side or very light printing.



終